

2018年度卒業生アンケート調査結果報告

<調査概要>

□ 調査の方法 (2018年度)

調査対象 2018年9月および2019年3月卒業生

調査方法 学位記交付会場または学部窓口にて配布、回収

調査時期 9月卒業生：2018年9月15日～2019年4月17日回収分までを集計対象。

3月卒業生：2019年3月24日～2019年4月17日回収分までを集計対象。

□ 年度別回収状況

年度	卒業者数	回答数	回収率
2018	6,172	5,639	91.4%
2017	6,561	5,783	88.1%
2016	6,062	5,374	88.7%
2015	6,021	5,437	90.3%
2014	6,129	5,511	89.9%
2013	6,292	5,559	88.4%
2012	6,196	5,220	84.2%
2011	6,100	4,998	81.9%
2010	6,985	6,041	86.5%

□ グラフ参照時における共通注意事項

○端数処理の関係上、肯定的回答の合計と内訳が一致しないことがある。

○「わからない」の回答項目を2010～2013年度は設けていたが、2014年度より廃止した。

<調査結果>

1 法政大学および卒業学部に対する満足度

図 1.1 及び図 1.2 は、「法政大学および卒業する学部へのどの程度満足していますか」との質問に対する肯定的回答（「満足している」＋「やや満足している」の割合。以下同じ。）の推移を示している。

2018 年度の結果のみ見ると、法政大学に対する満足度の肯定的回答は 84.2%であり、入学学部に対する満足度の肯定的回答は 82.4%である。続いて、経年推移を見ると、2014 年度以降は両満足度ともにあまり変化はなく、肯定的回答は 80%前半で推移している。

図 1.1 法政大学に対する満足度（経年推移）

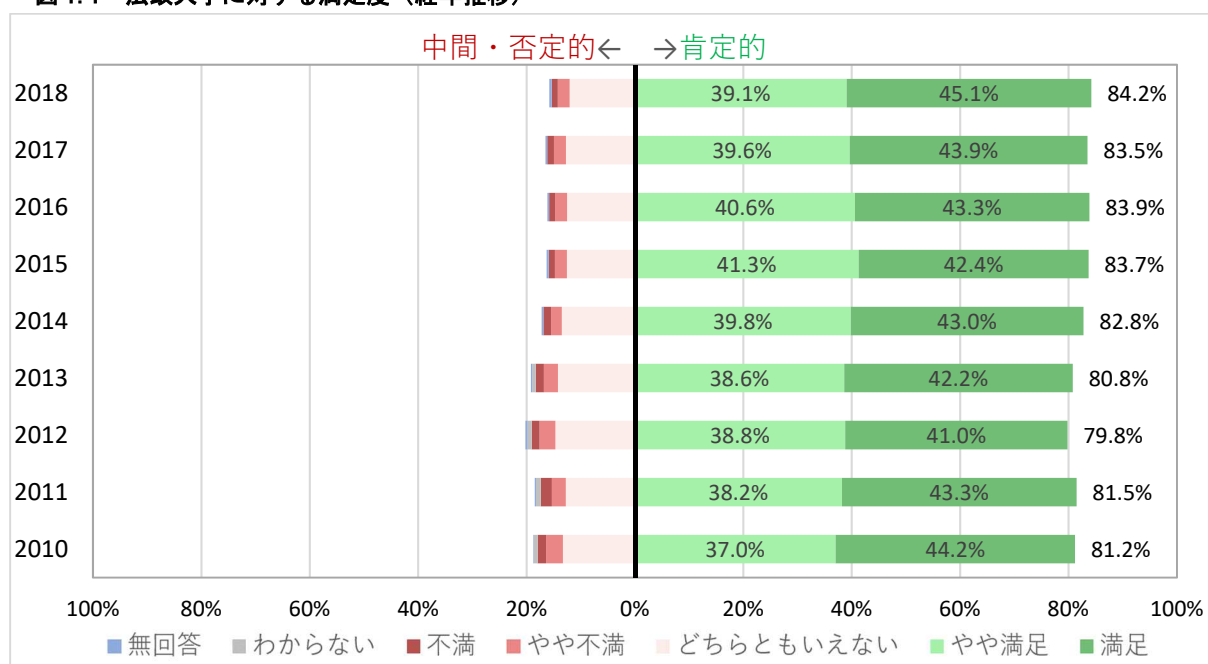
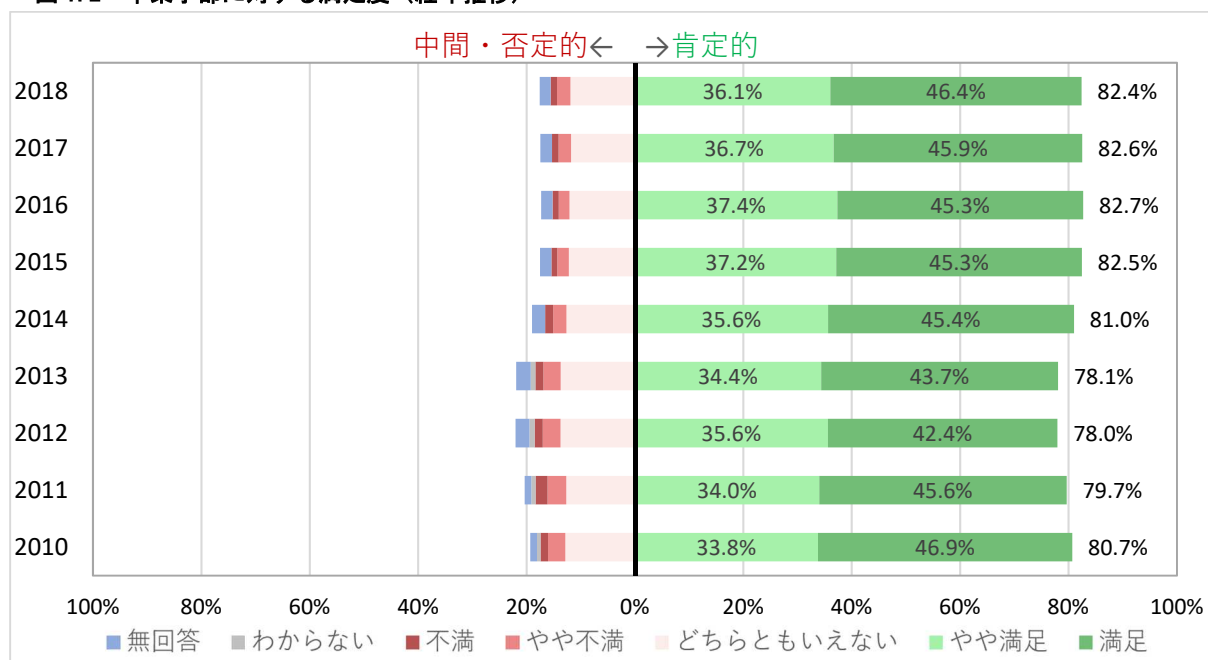


図 1.2 卒業学部に対する満足度（経年推移）



2 教育内容への満足度

図 2.1～図 2.10 は、「教育内容についてあなたはどの程度満足していますか」との質問に対する回答結果を、単年度集計及び経年推移で示したものである。教育内容は、①教養教育、②専門課程の教育、③英語教育、④その他の外国語教育、⑤情報教育、⑥教授陣、⑦ゼミナール、⑧カリキュラム全般、⑨キャリア教育の9項目について尋ねた。

2018年度の結果のみ見ると、肯定的回答（「満足している」＋「やや満足している」の割合。以下同じ。）は「専門教育」が80.3%と最も高く、「ゼミナール」「教授陣」「教養教育」「カリキュラム全般」が7割以上、「情報教育」「キャリア教育」が6割程度と続き、「その他外国語教育」「英語教育」はいずれも50%台であった。

続いて、経年推移を見ると、「英語教育」「その他外国語教育」「カリキュラム全般」は肯定的回答が増加傾向にある。その他の項目（「教養教育」「専門課程の教育」「教授陣」「情報教育」「ゼミナール」「キャリア教育」）は、2014年度あるいは2015年度を境に肯定的回答が増加したが、その後はあまり変わらずほぼ同じ水準で推移している。

図 2.1 教育内容への満足度（2018年度）

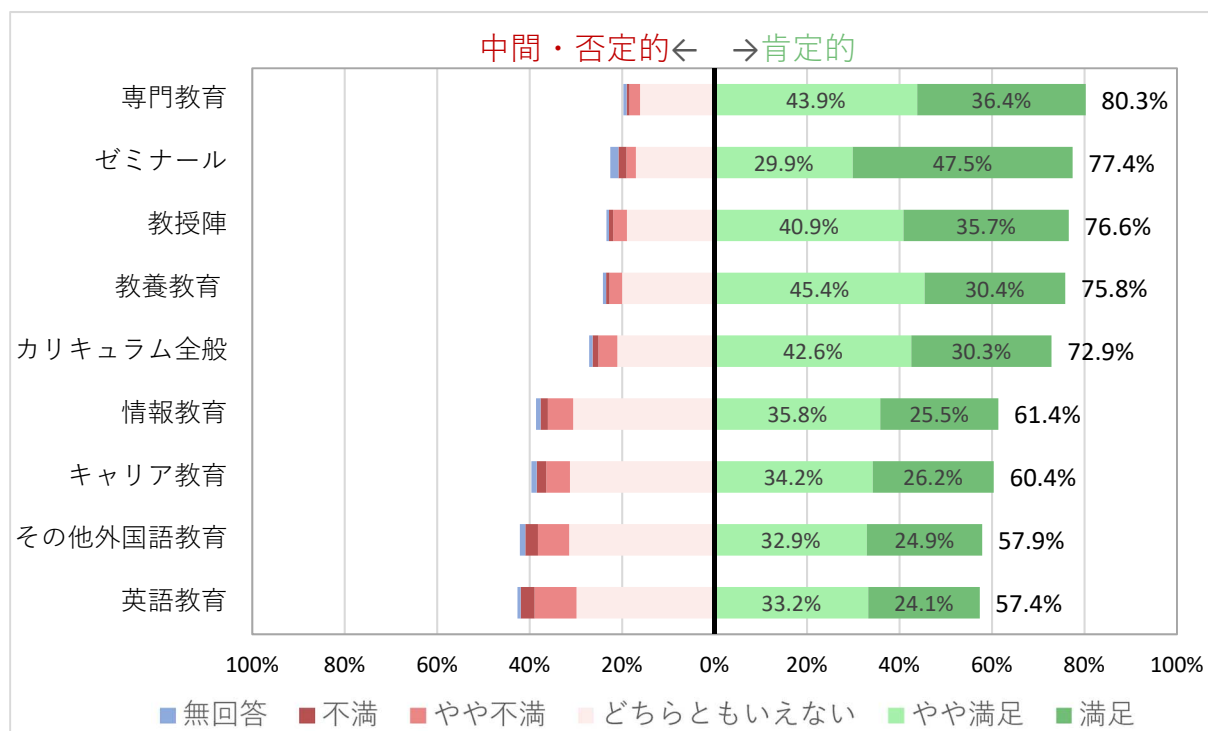


図 2.2 教養教育の満足度（経年推移） ※グローバル教養学部は集計対象外

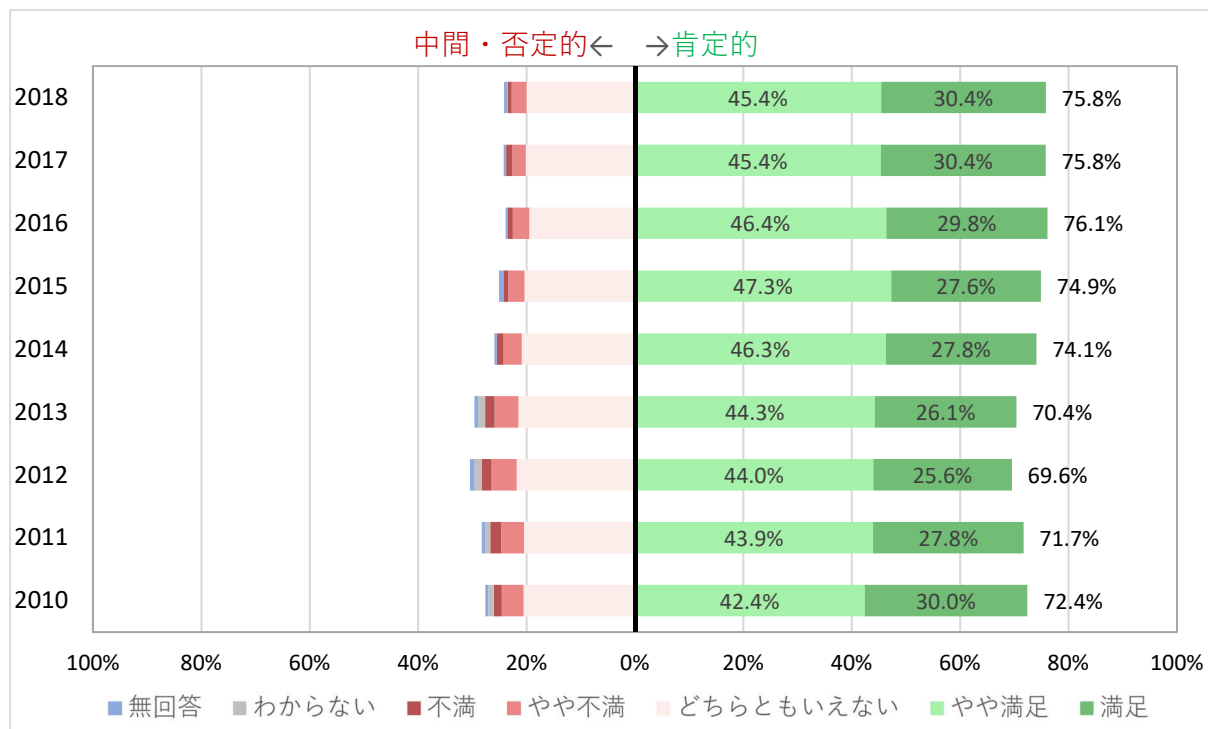


図 2.3 専門課程の教育の満足度（経年推移）

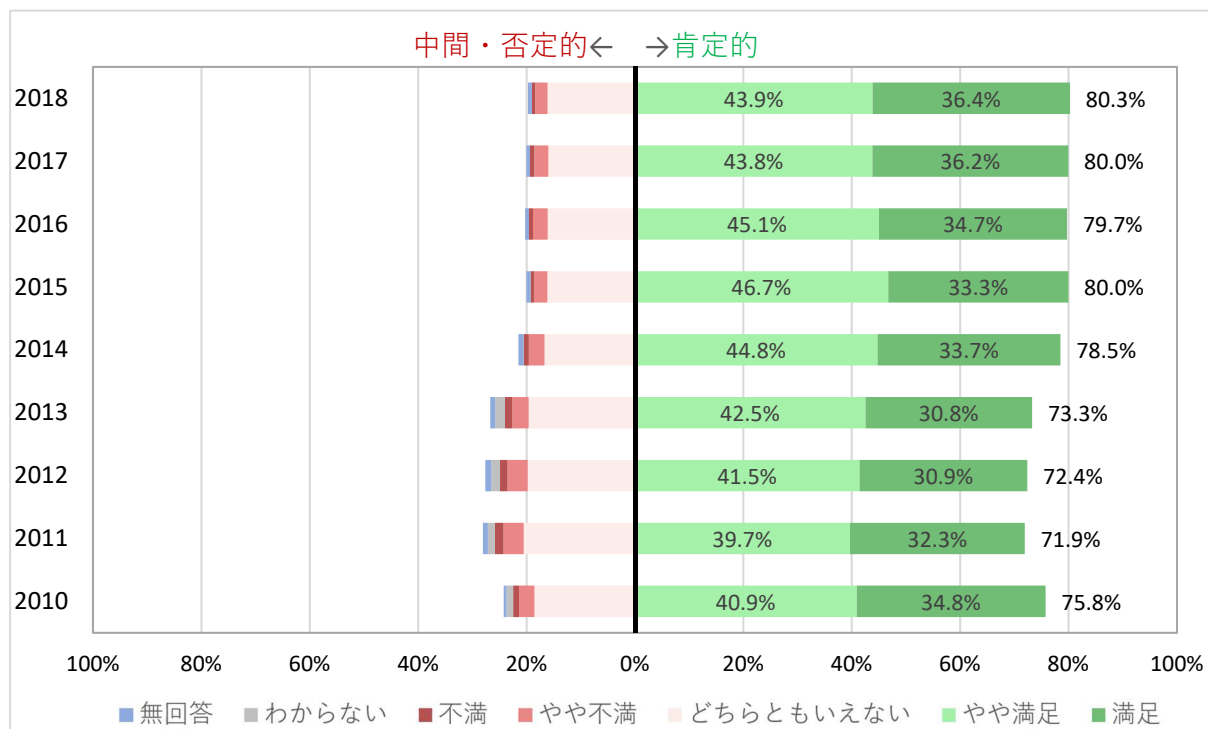


図 2.4 英語教育の満足度（経年推移）

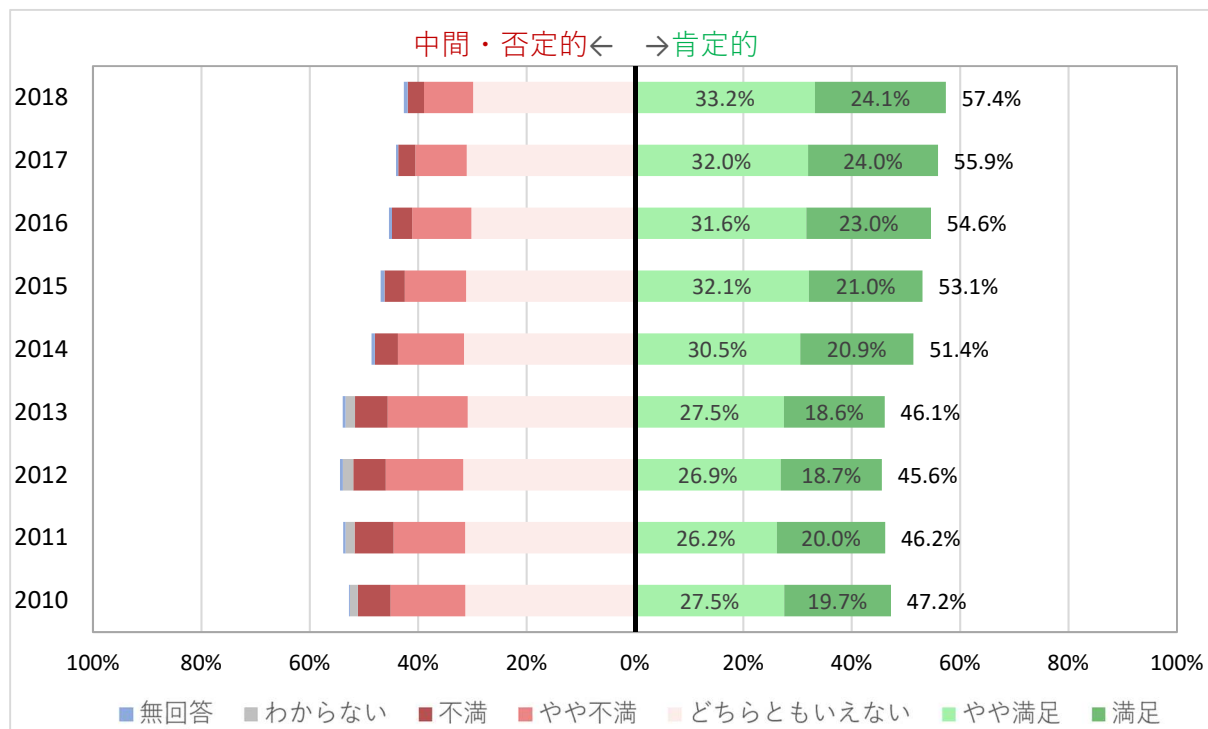


図 2.5 その他の外国語教育の満足度（経年推移）

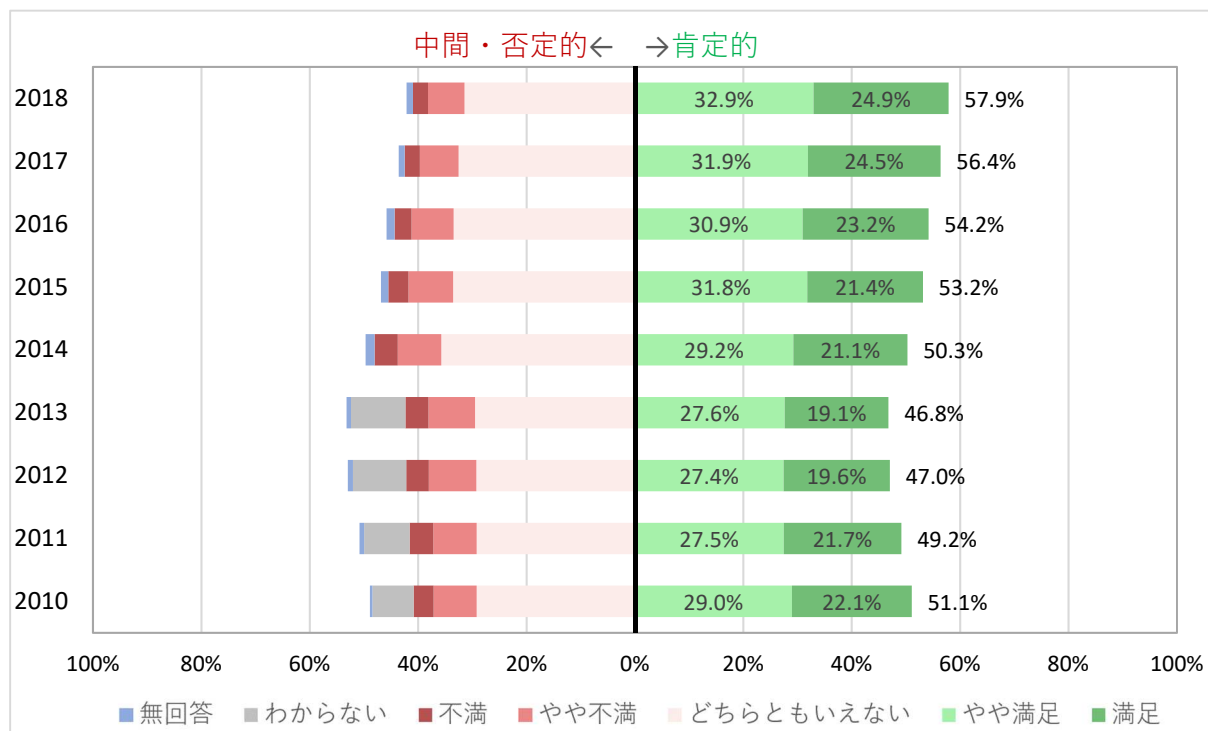


図 2.6 情報教育の満足度（経年推移）

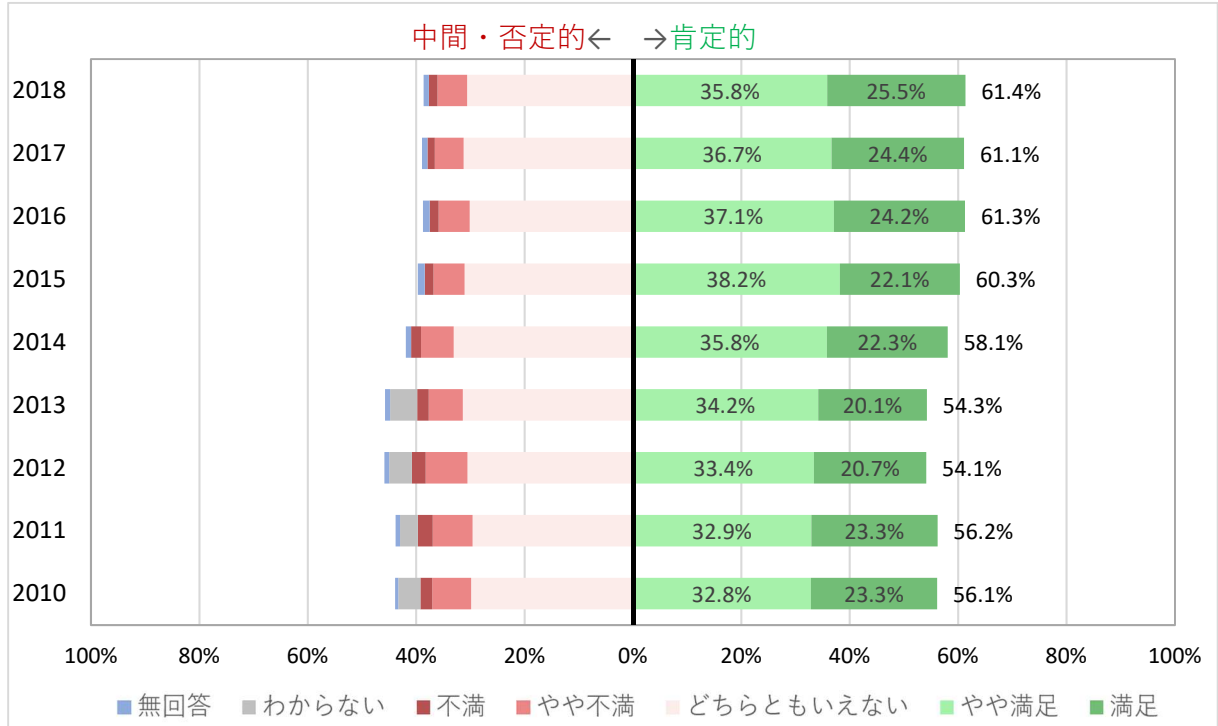


図 2.7 教授陣の満足度（経年推移）

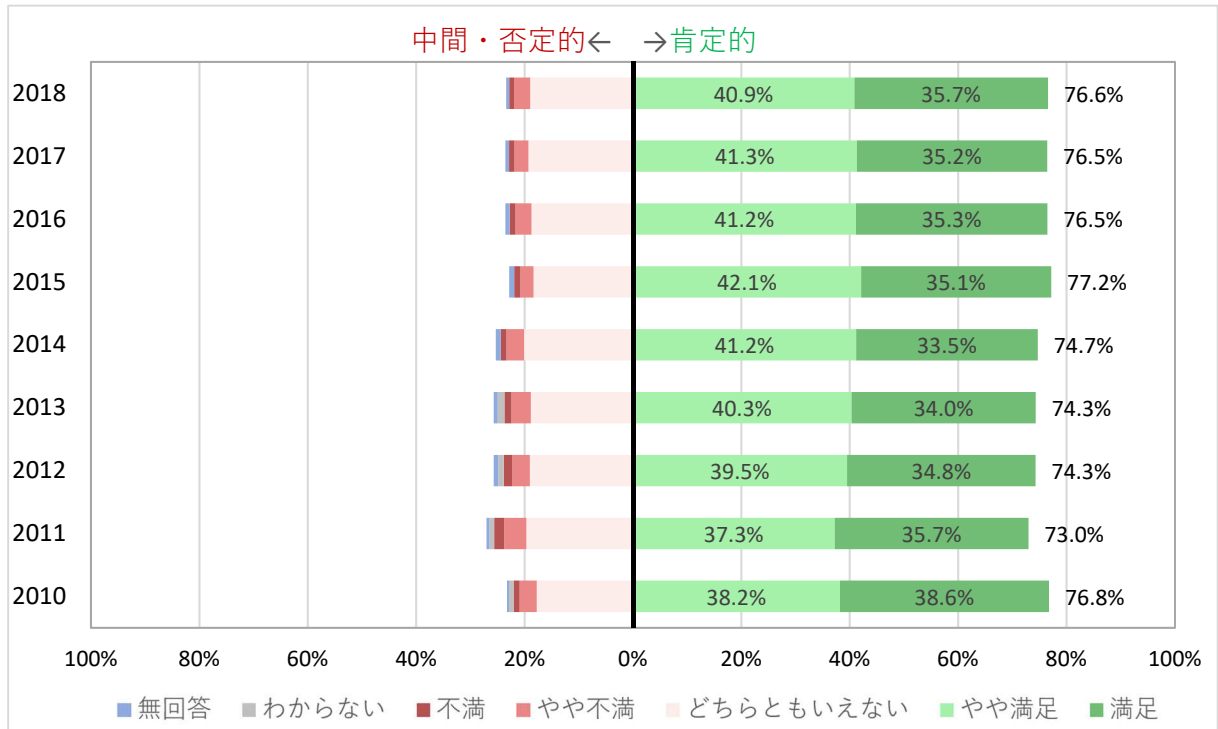


図 2.8 ゼミナールの満足度（経年推移）

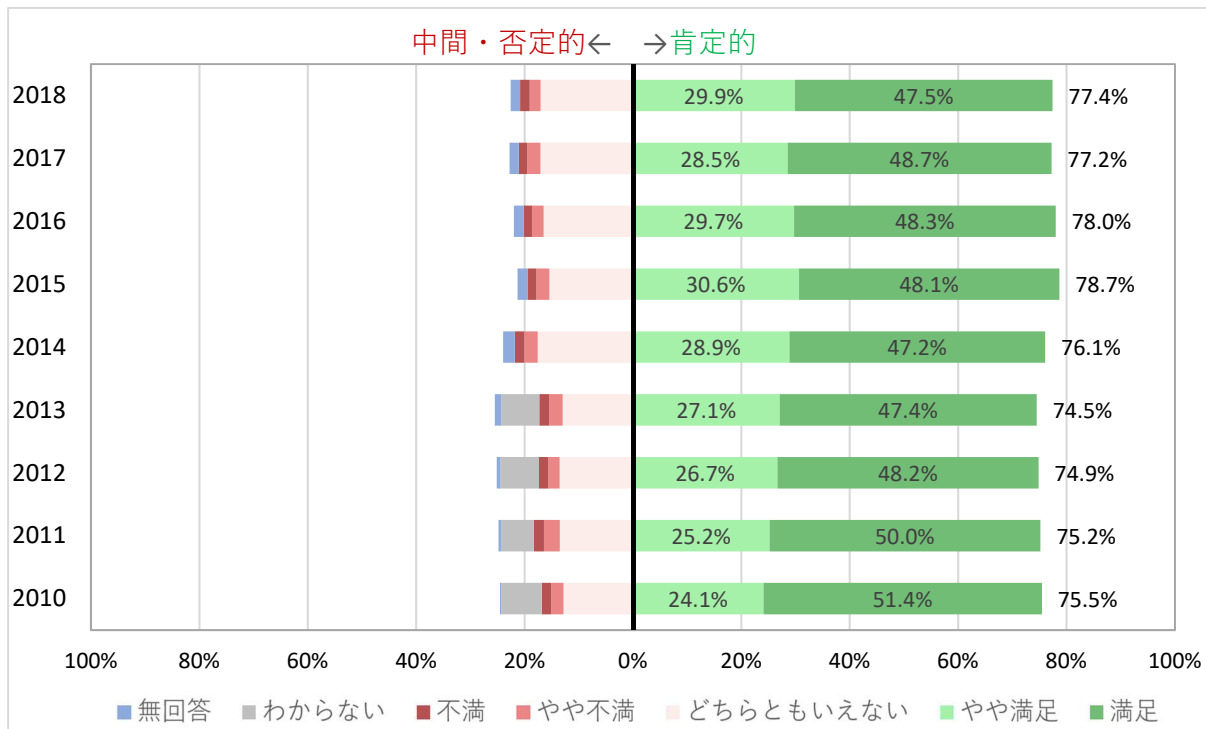


図 2.9 カリキュラム全般の満足度（経年推移）

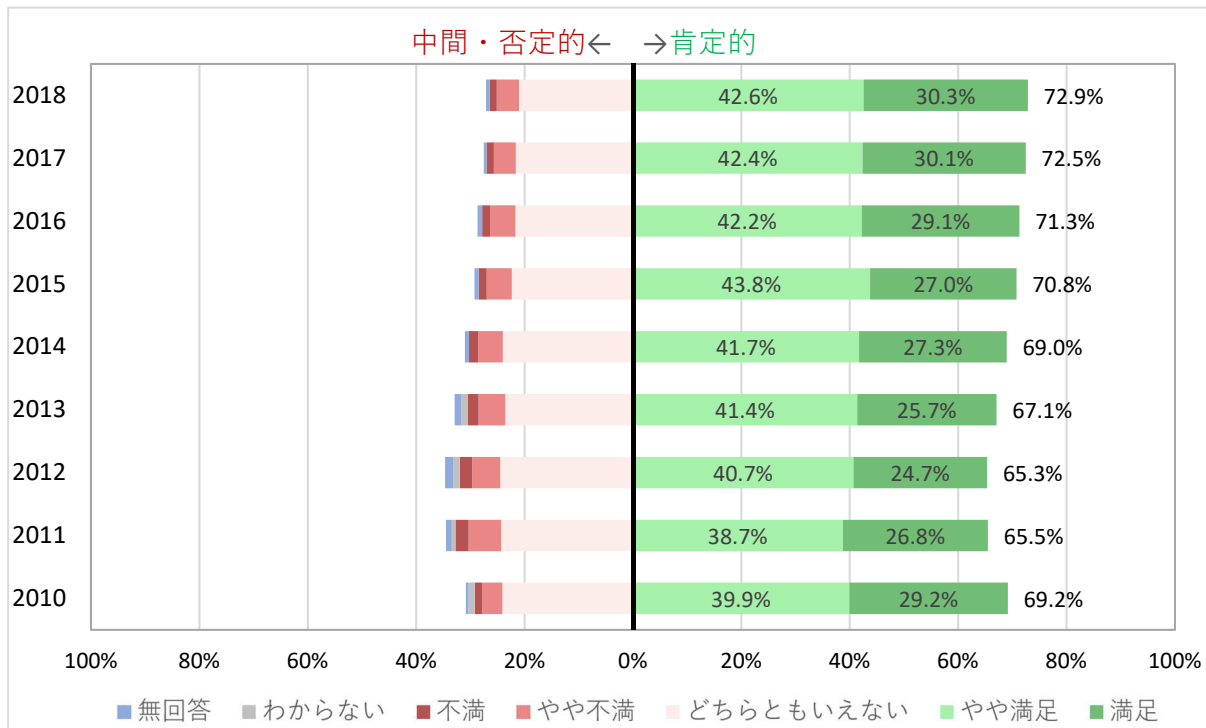
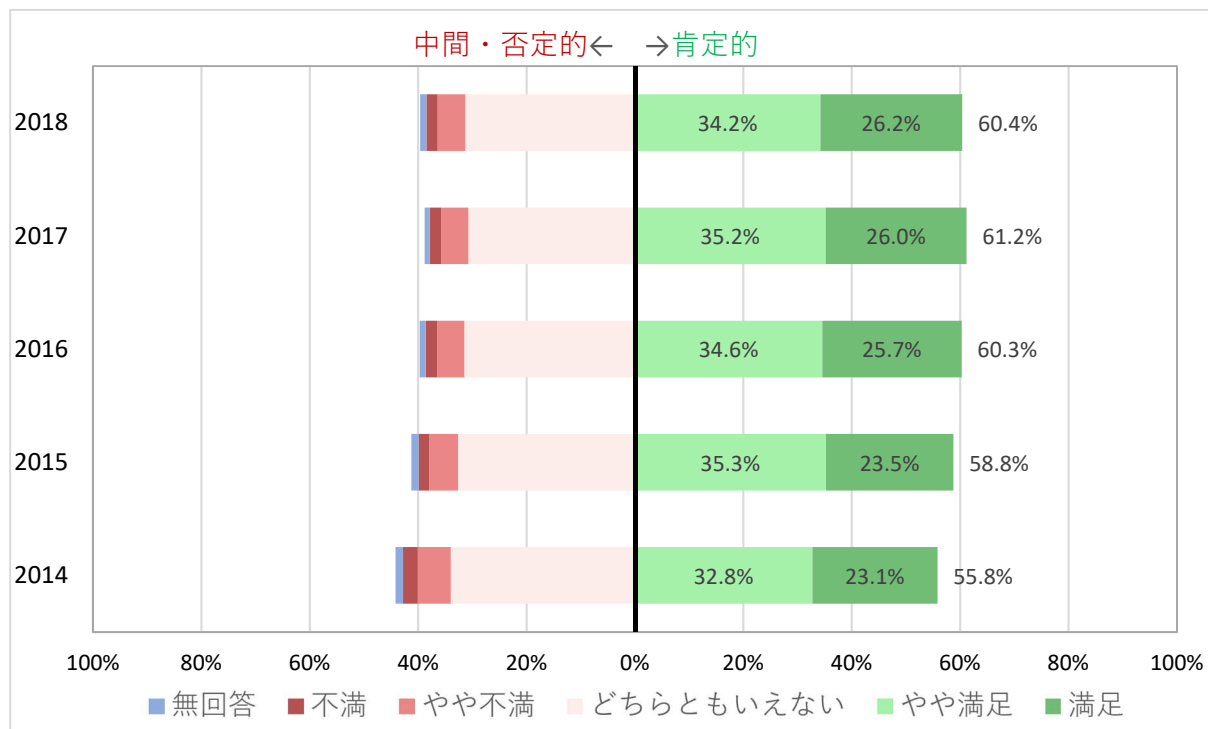


図 2.10 キャリア教育の満足度（経年推移）



3 大学における知識・能力の習得感

図 3.1～図 3.10 は、「大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか」との質問に対する回答結果を、単年度集計及び経年推移で示したものである。知識や能力は、①専門的知識とその応用力、②幅広い教養、③英語能力、④その他の外国語能力、⑤課題発見・解決能力、⑥コミュニケーション能力、⑦自己判断能力、⑧チームワーク力、⑨社会に出ていく自信・能力の9項目について尋ねた。

2018年度の結果のみ見ると、肯定的回答（「そう思う」＋「いづらかそう思う」の割合。以下同じ。）は「自己判断能力」が77.2%と最も高く、「幅広い教養」「専門的知識とその応用力」「コミュニケーション能力」「チームワーク力」「社会に出ていく自信・能力」「課題発見・解決能力」と続く。一方、「英語能力」「その他外国語能力」の肯定的回答は約4割であった。

図 3.1 身につけることができた知識や能力（2018年度）

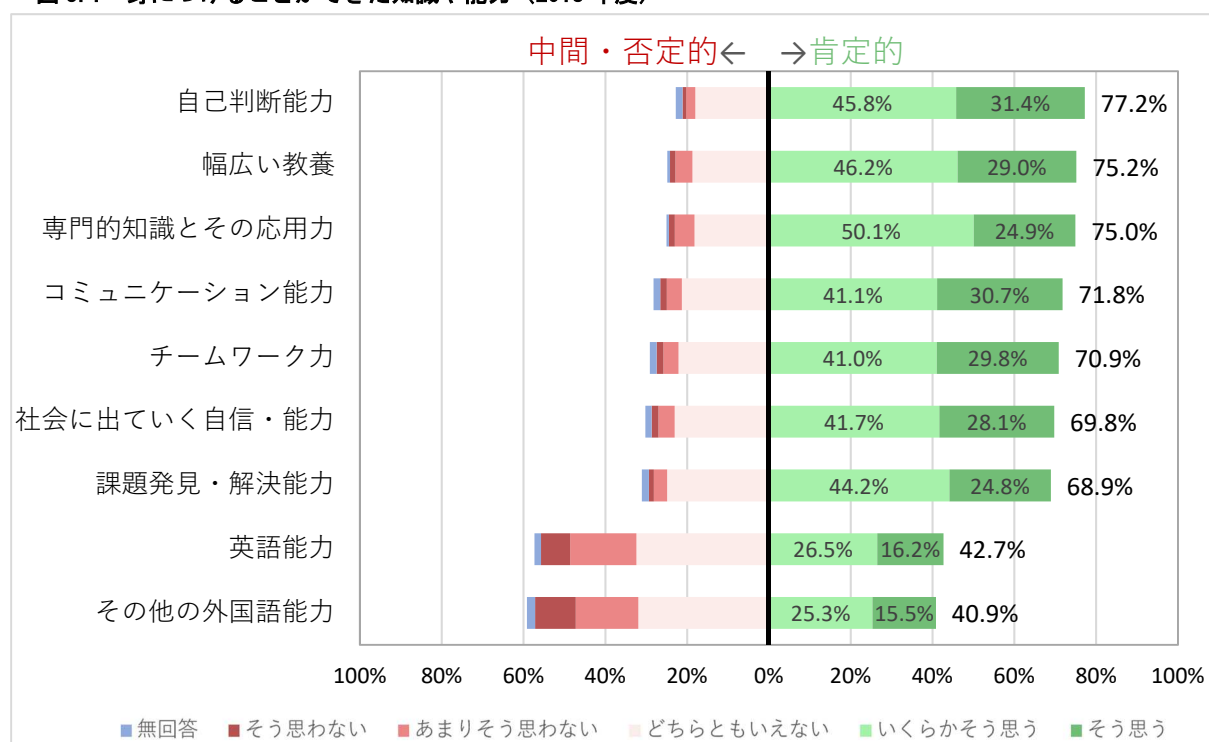


図 3.2 専門的知識とその応用力（経年推移）

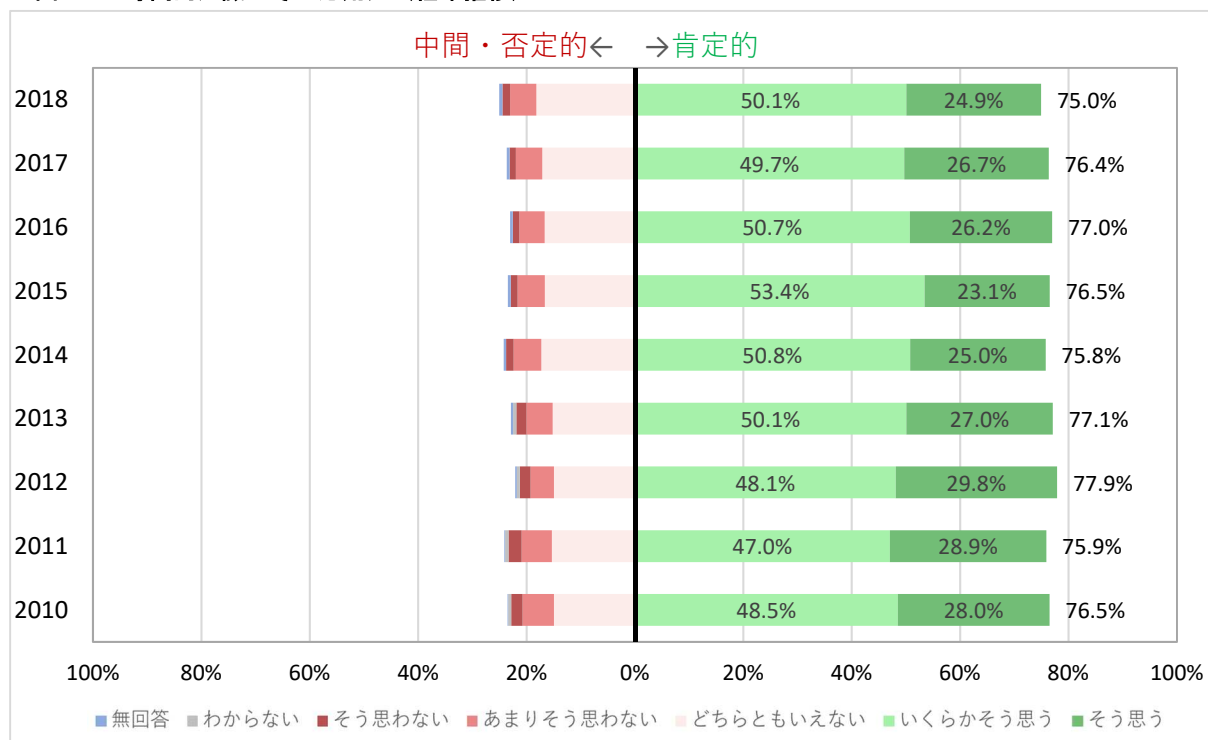


図 3.3 幅広い教養（経年推移）

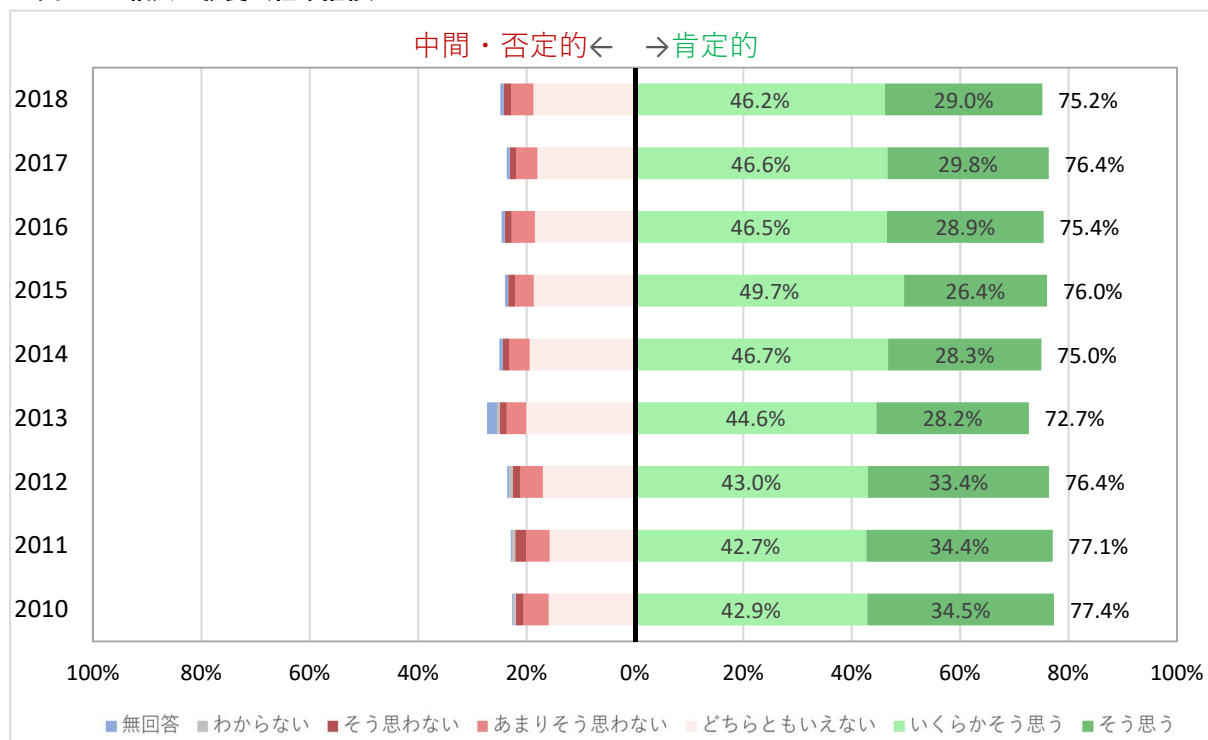


図 3.4 英語能力（経年推移）

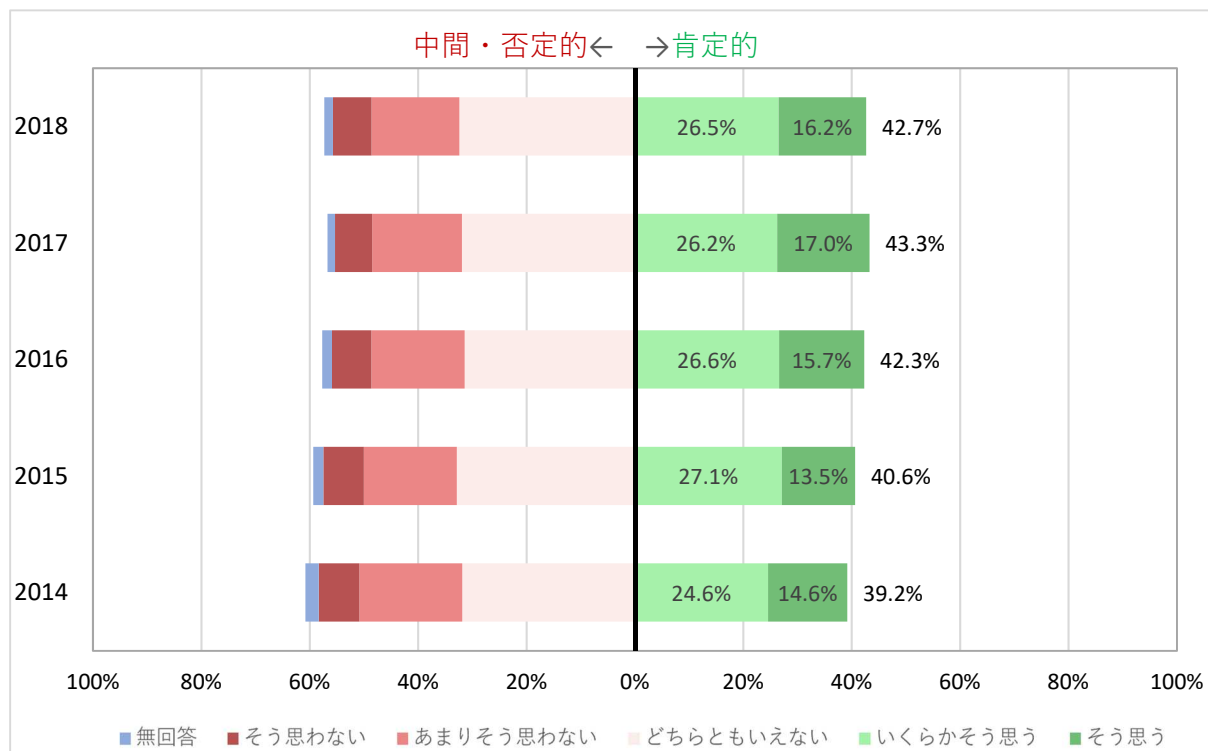


図 3.5 その他の外国語能力（経年推移）

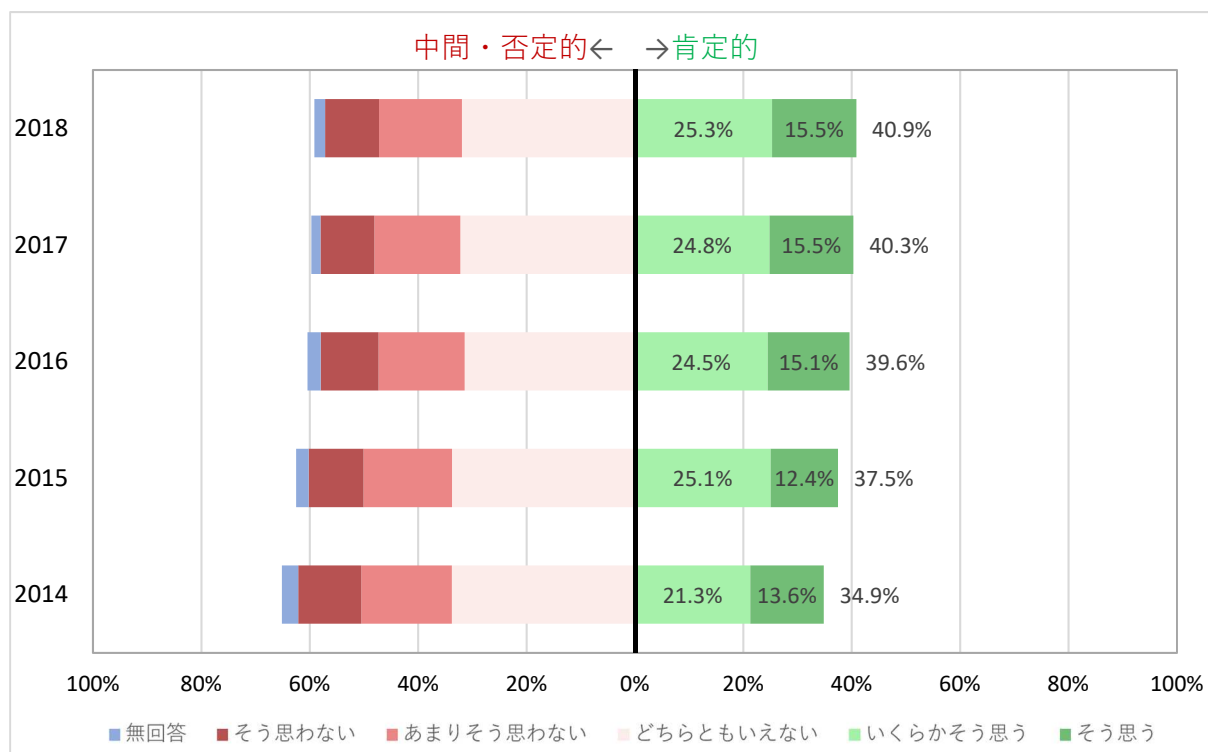


図 3.6 課題発見・解決能力（経年推移）

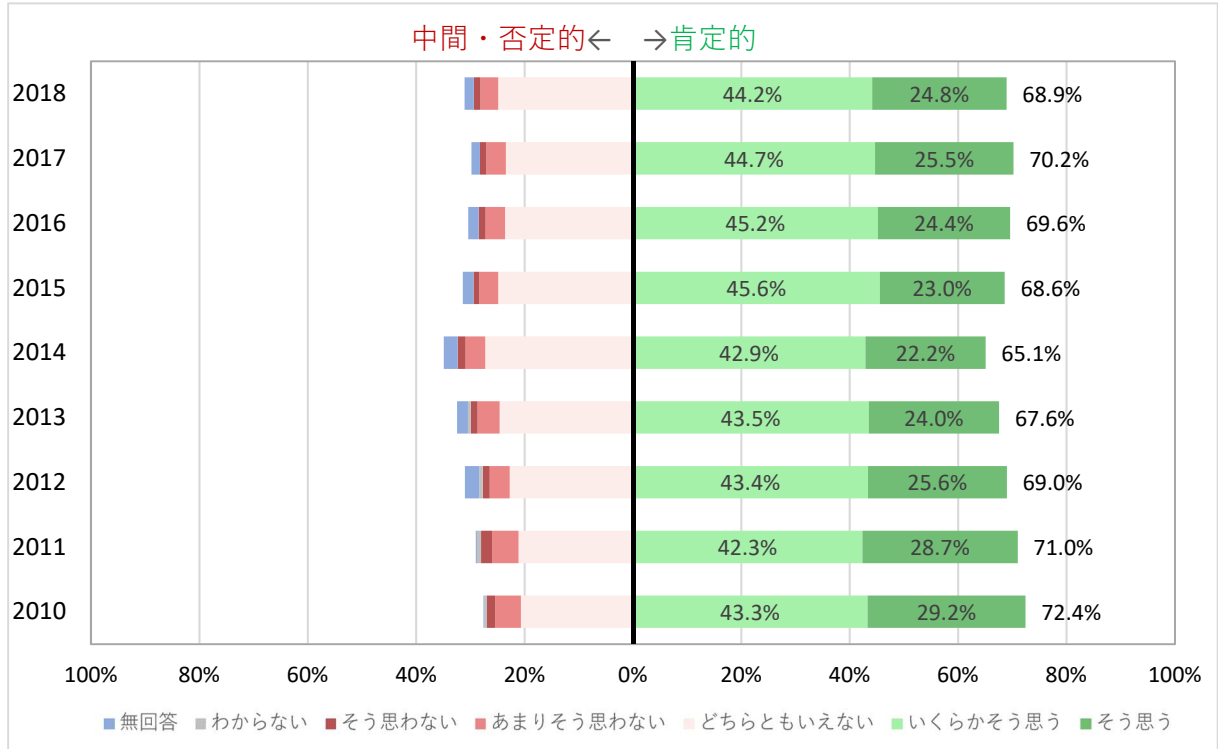


図 3.7 コミュニケーション能力（経年推移）

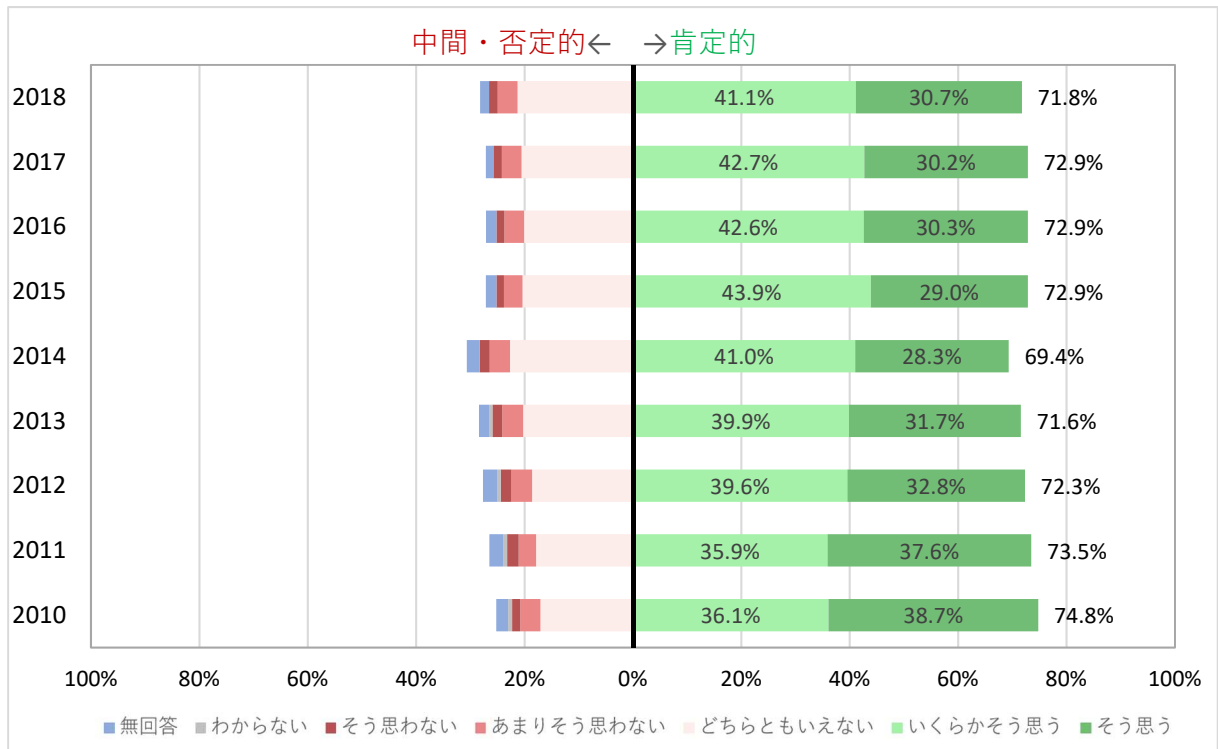


図 3.8 自己判断能力（経年推移）

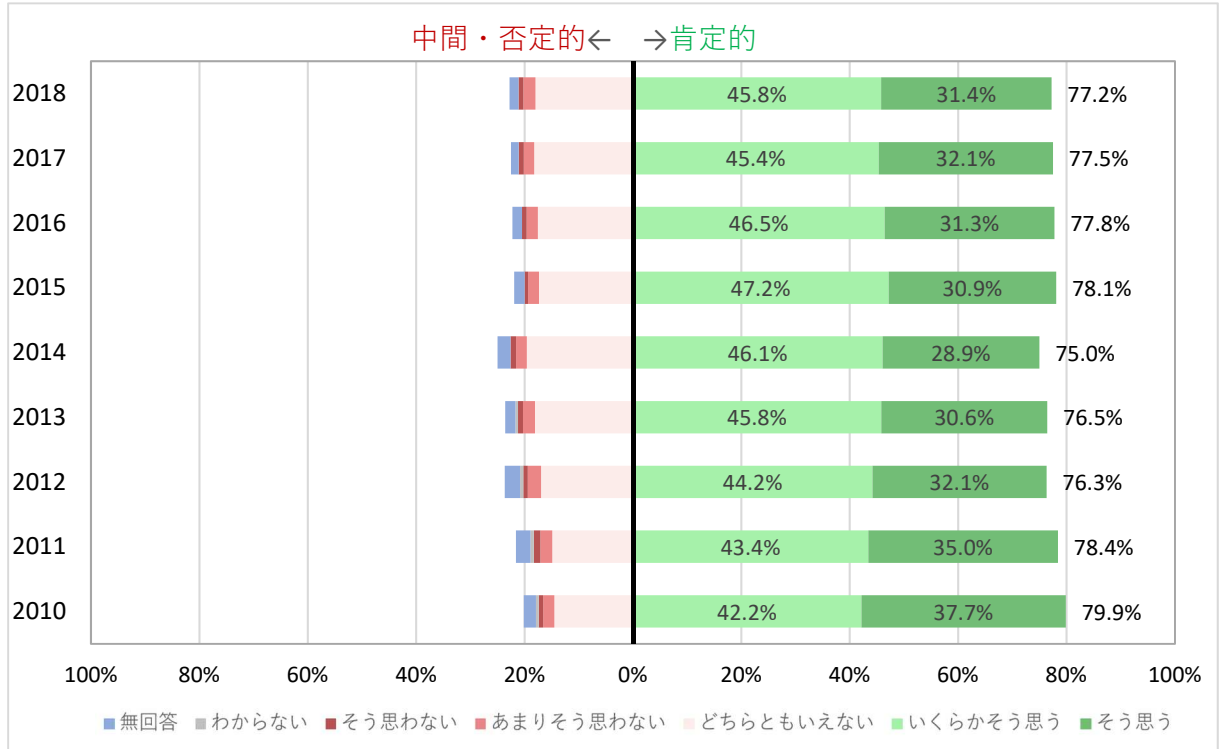


図 3.9 チームワーク力（経年推移）

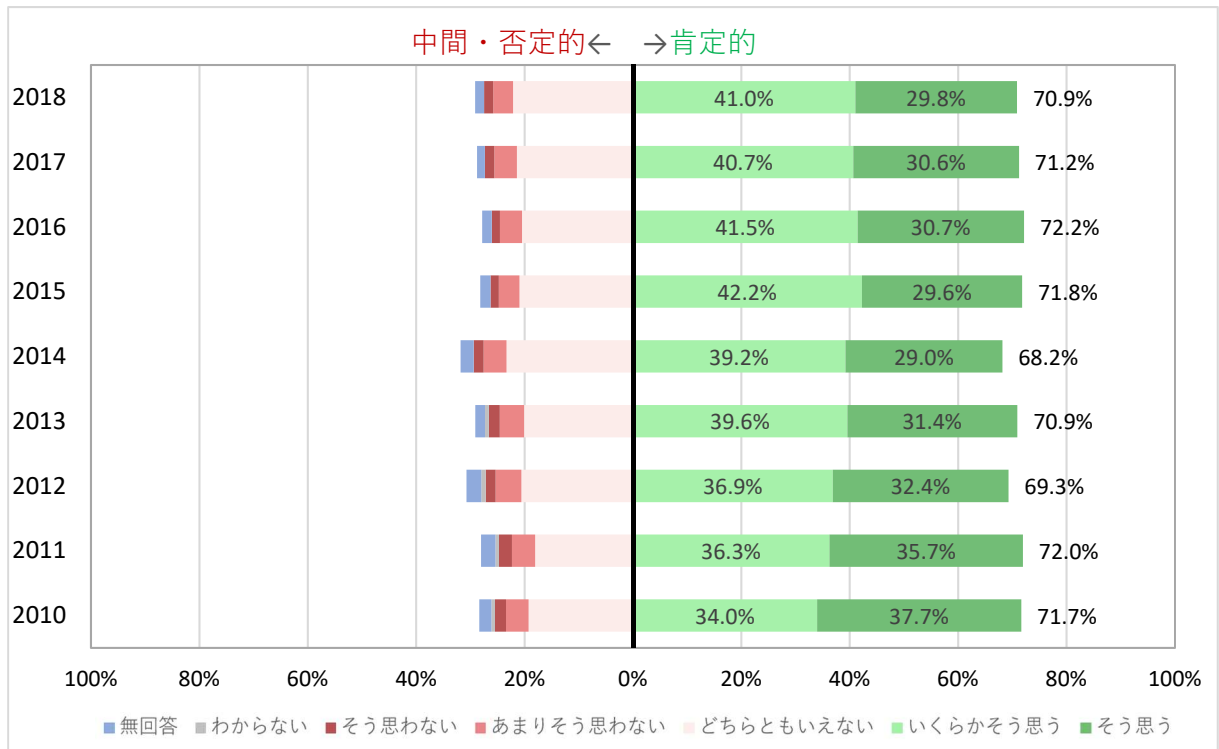
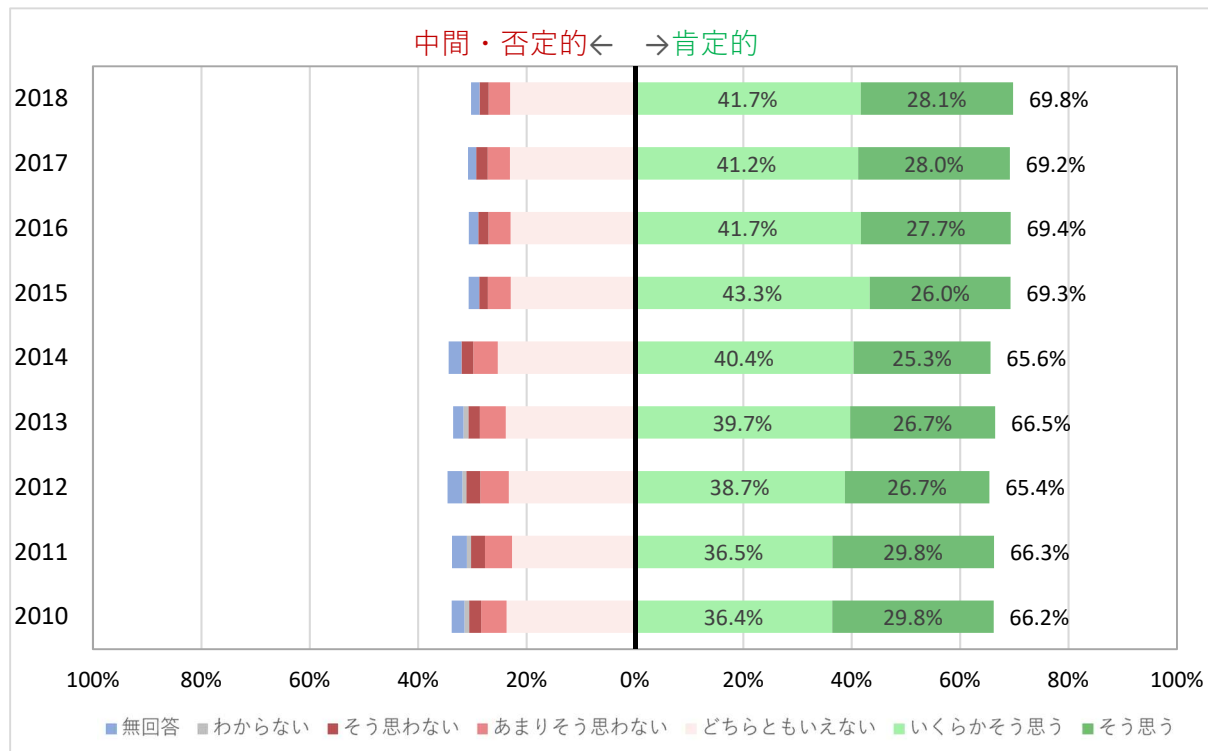


図 3.10 社会に出ていく自信・能力（経年推移）



4 大学のサービスや施設、設備への満足度

図 4.1～図 4.11 は、「大学のサービスや施設・設備に対してどの程度満足していますか」との質問に対する回答を、単年度集計及び経年推移で示したものである。サービスは①学部窓口、②図書館、③学生センター、④コンピュータ、⑤就職支援、⑥学習環境支援の 6 項目、キャンパスの施設・設備は⑦建物・教室、⑧学生ホール・サークル施設・広場等、⑨食堂、⑩交通の便の 4 項目について質問した。

2018 年度の全体結果のみ見ると、肯定的回答（「満足している」＋「やや満足している」の割合。以下同じ。）は図書館が 76.8%で最も高く、その他の項目は 6 割～7 割程度で続く。

サービスの経年推移を見ると、「学部窓口」「学生センター」「学習環境支援」は肯定的回答の割合が増加傾向にある。「就職支援」は、2018 年度は前年度に比べ 1.2 ポイント低下したものの、2015 年度以降で見ればほぼ同水準である。「図書館」は、2014 年度以降は 75%程度であり変わらず、「コンピュータ」は 2015 年度に肯定的回答が減少したがその後は増加傾向にある。

続いて、施設設備の経年推移を見ると、「建物・教室」「学生ホール・サークル施設・広場等」は 2015 年度に肯定的回答が減少したものの、その後は増加傾向にある。また、「食堂」「交通の便」は、2010 年度以降肯定的回答がやや増加傾向にある。

図 4.1 大学のサービスや施設、設備への満足度（2018 年度）

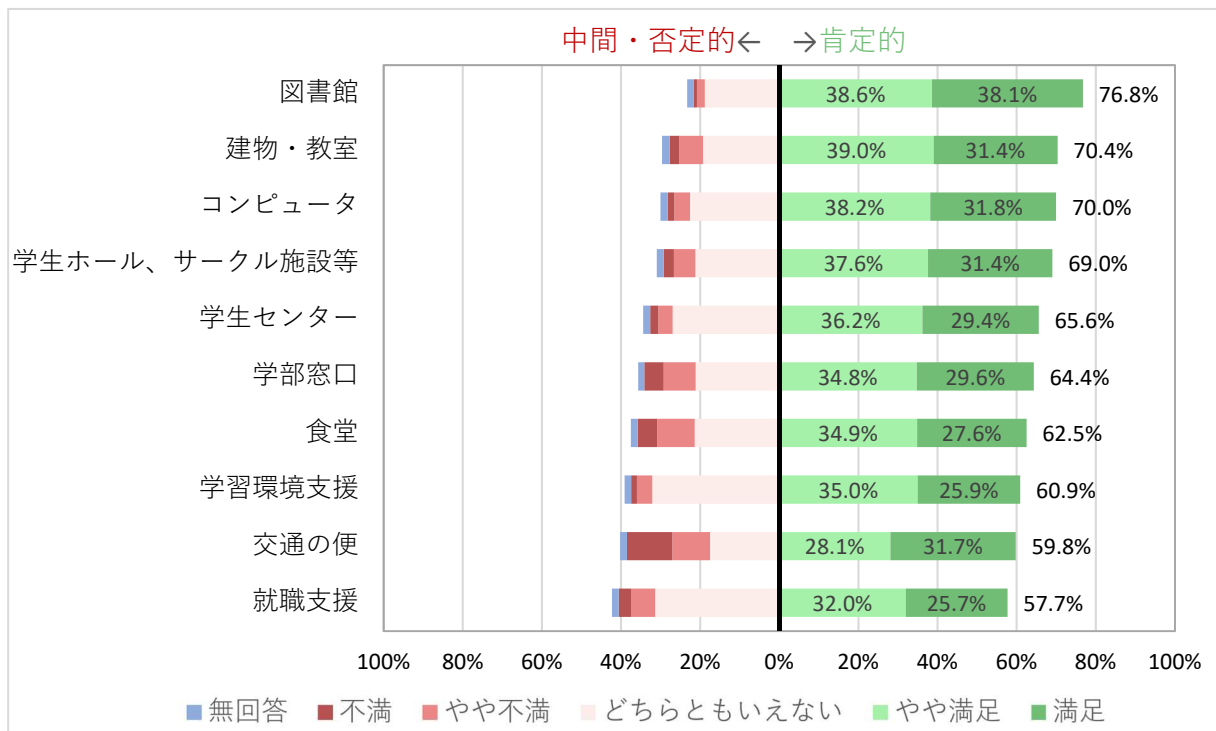


図 4.2 学部窓口サービスの満足度（経年推移）

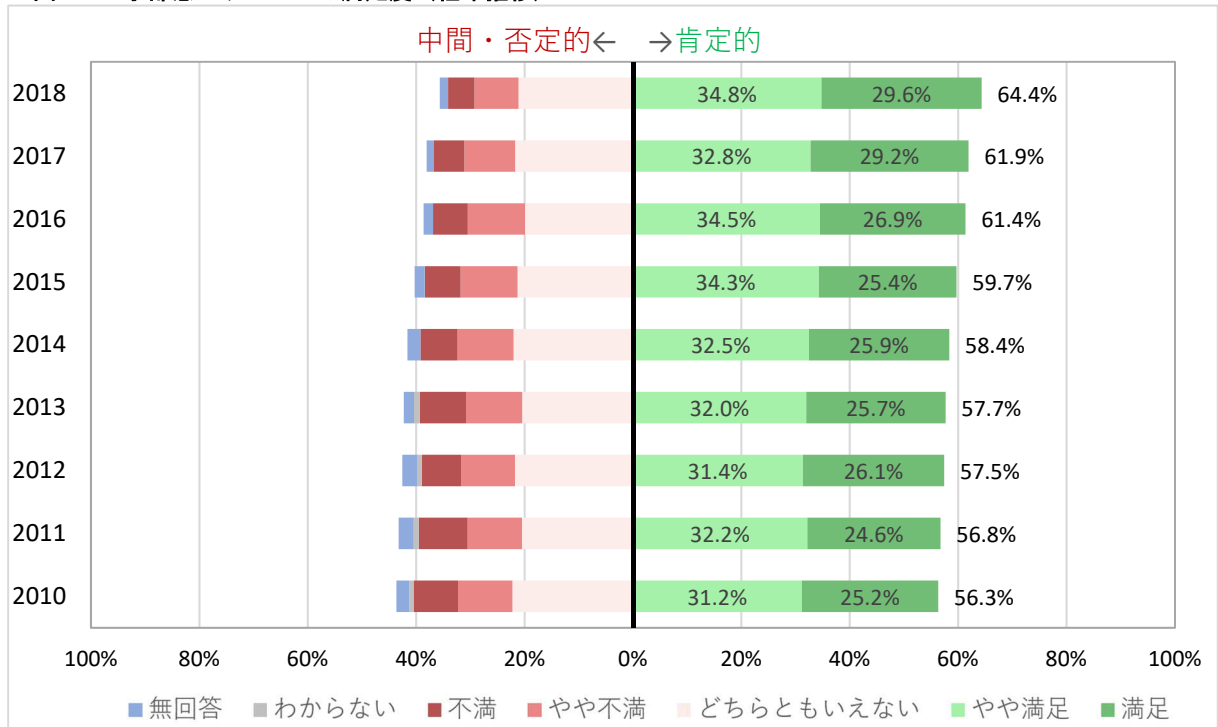


図 4.3 図書館サービスの満足度（経年推移）

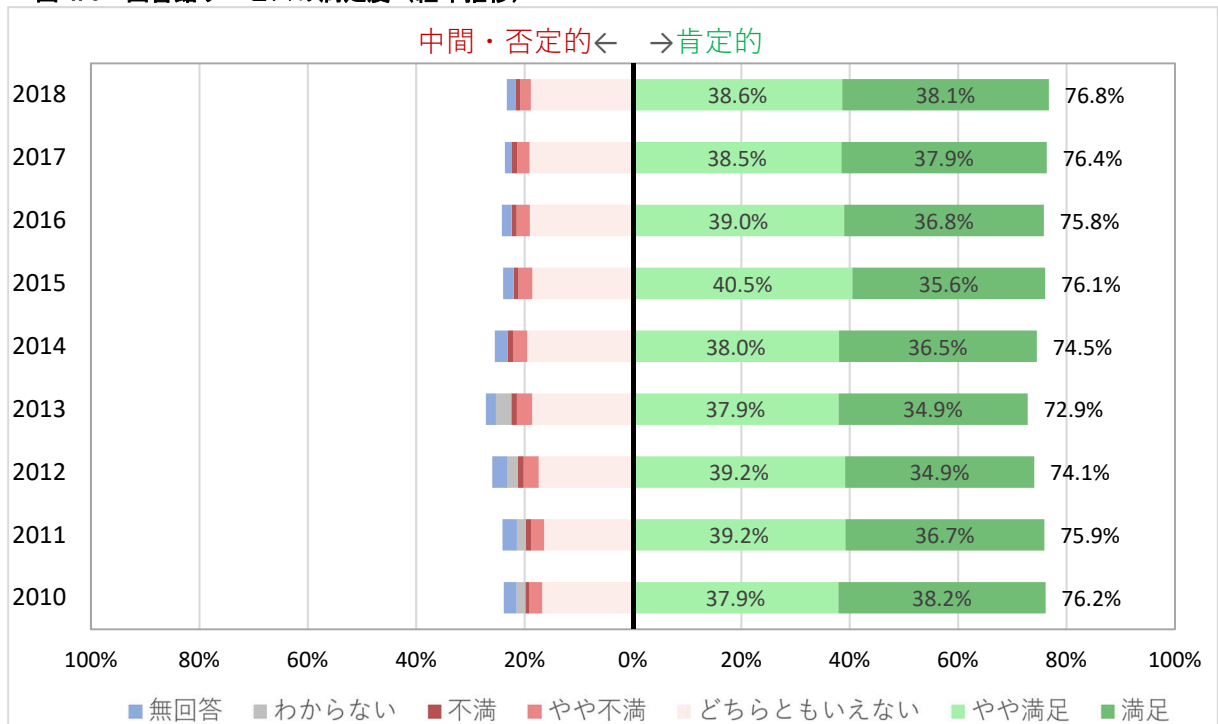


図 4.4 学生センターサービスの満足度（経年推移）

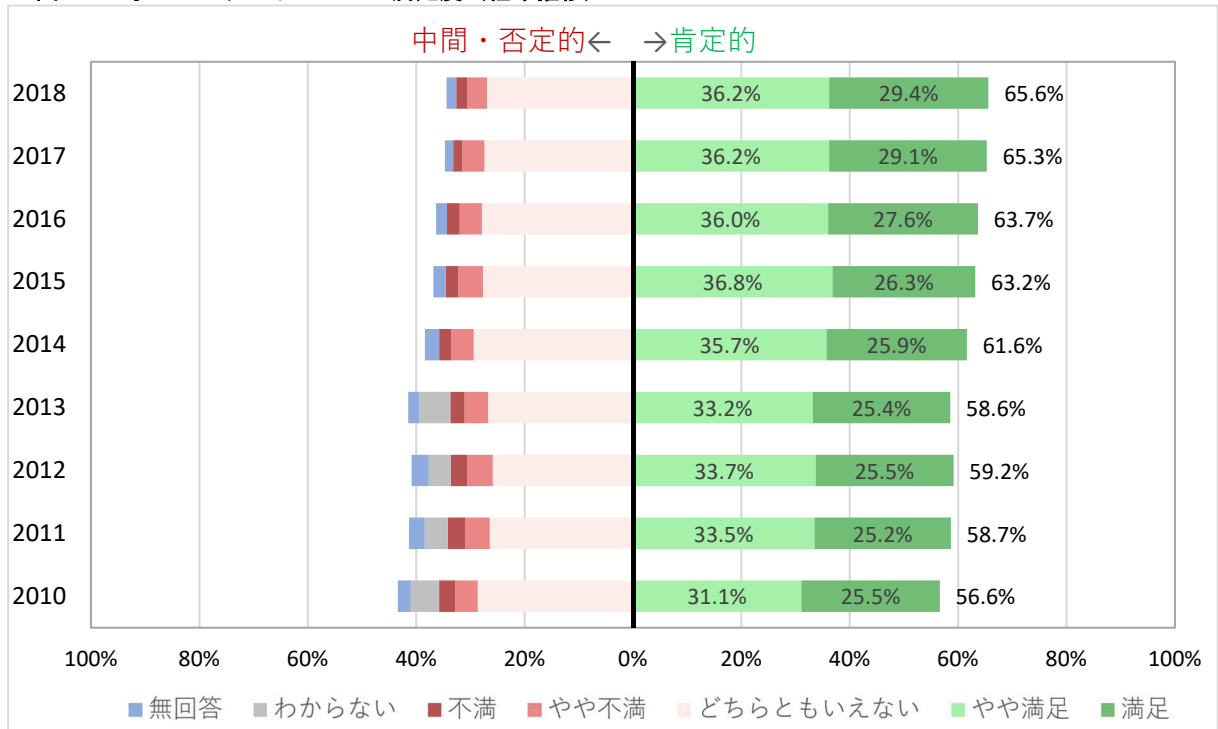


図 4.5 コンピュータサービスの満足度（経年推移）

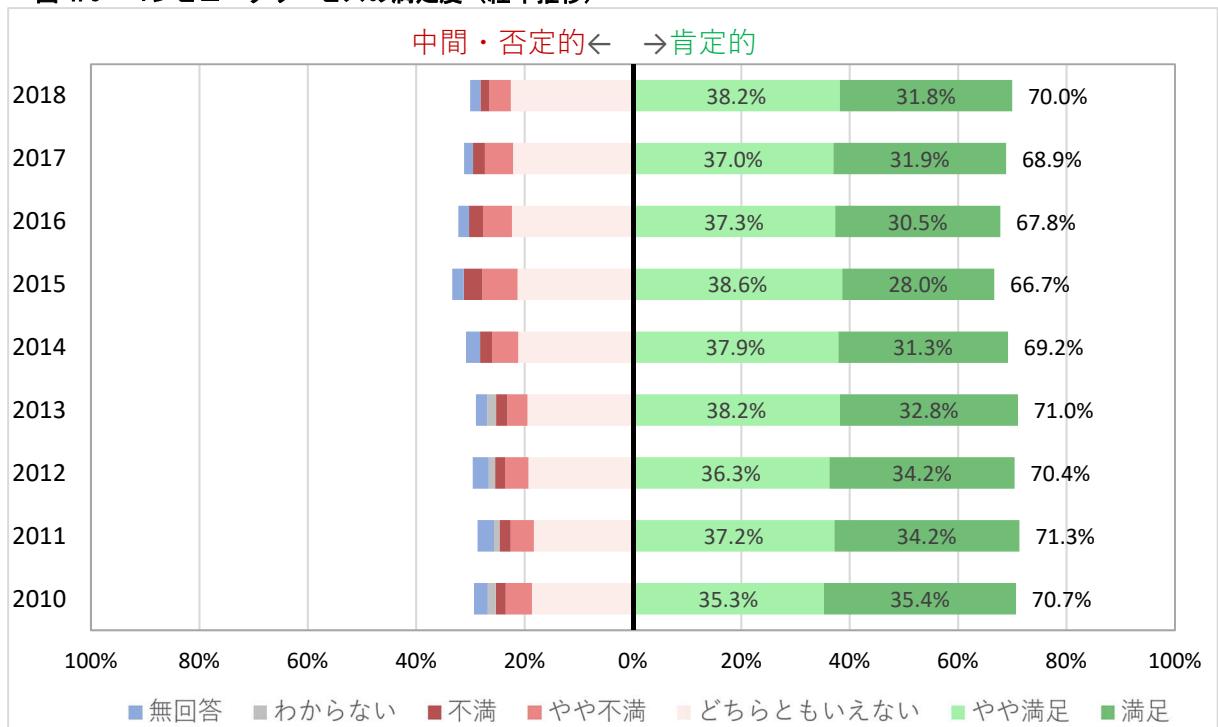


図 4.6 就職支援サービスの満足度（経年推移）

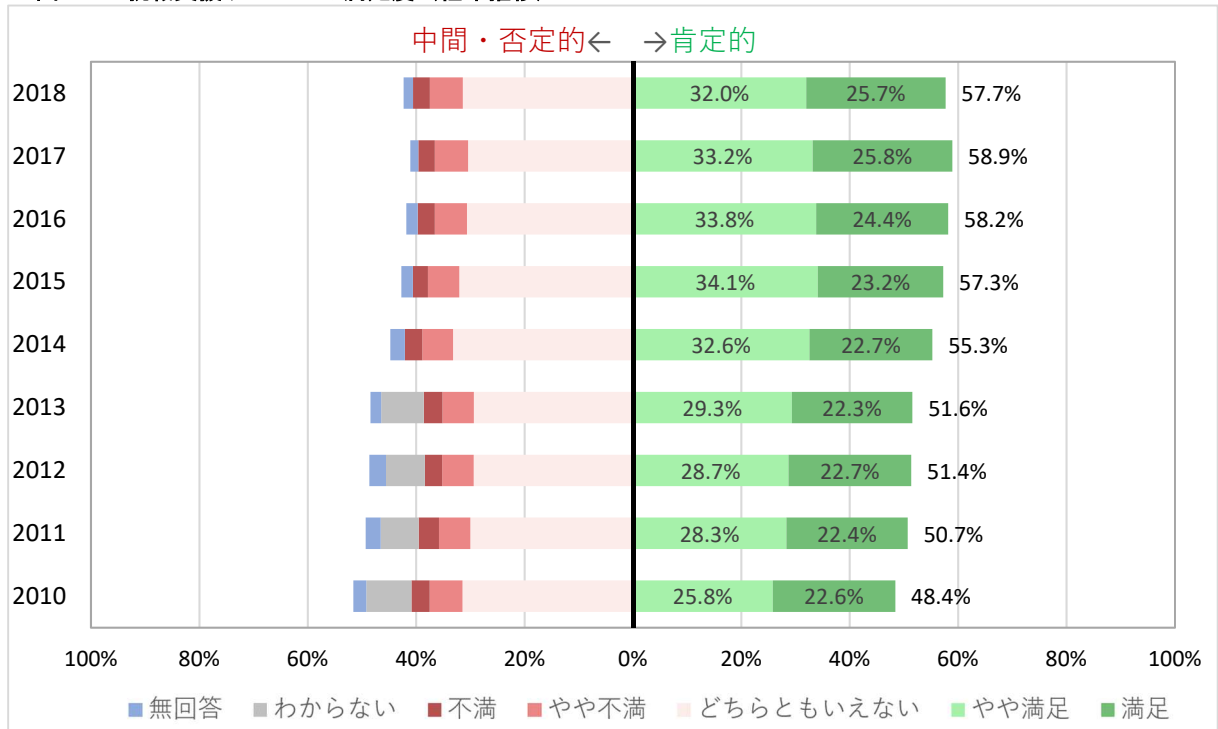


図 4.7 学習環境支援サービスの満足度（経年推移）

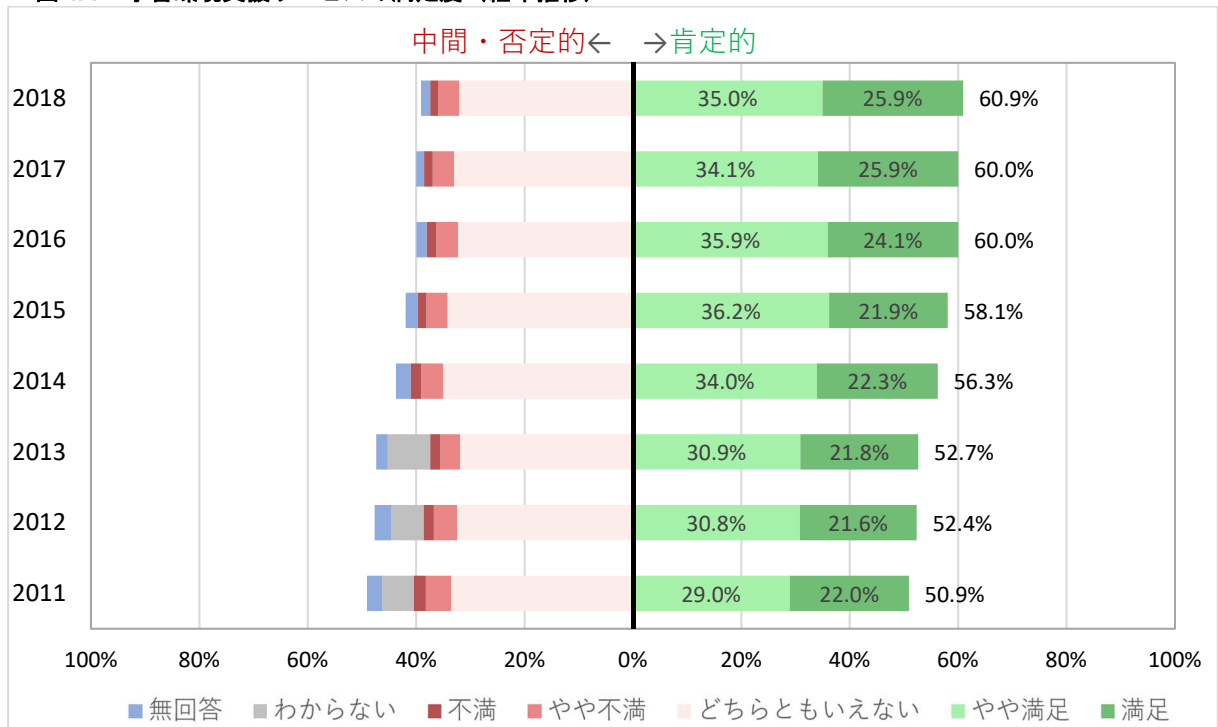


図 4.8 キャンパスの設備（建物・教室）の満足度（経年推移）

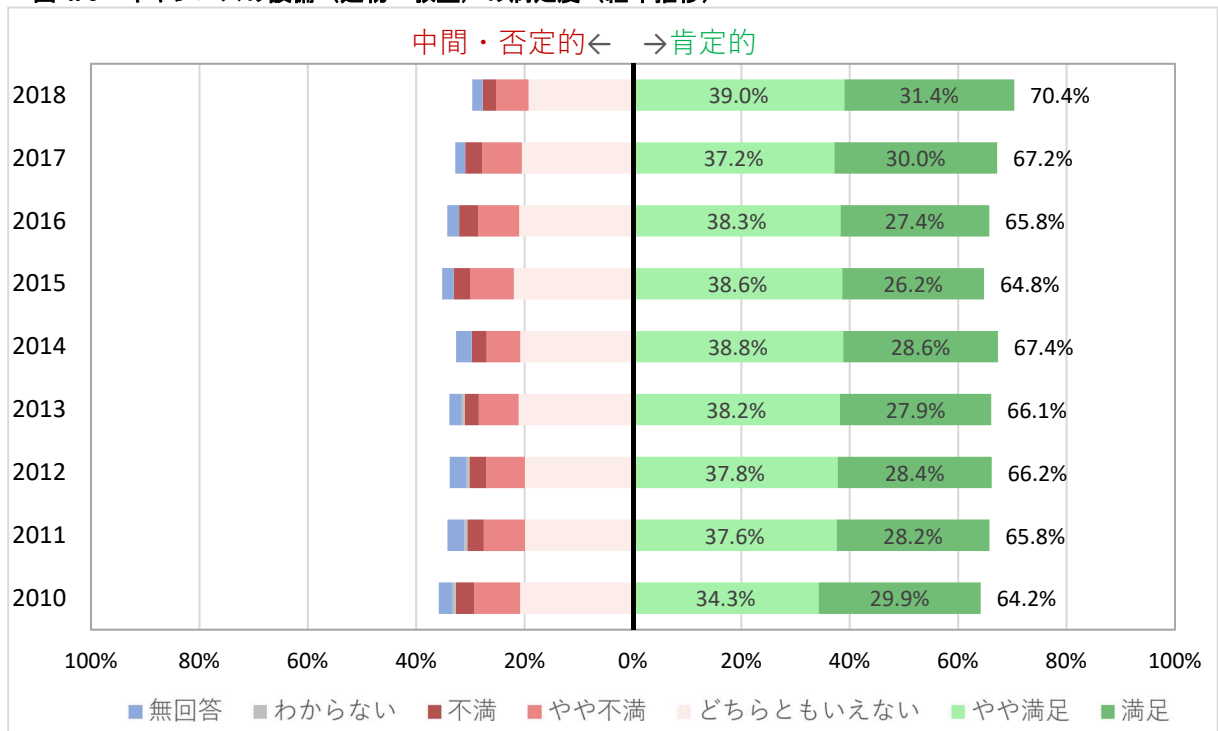


図 4.9 キャンパスの設備（学生ホール、サークル施設、広場等）の満足度（経年推移）

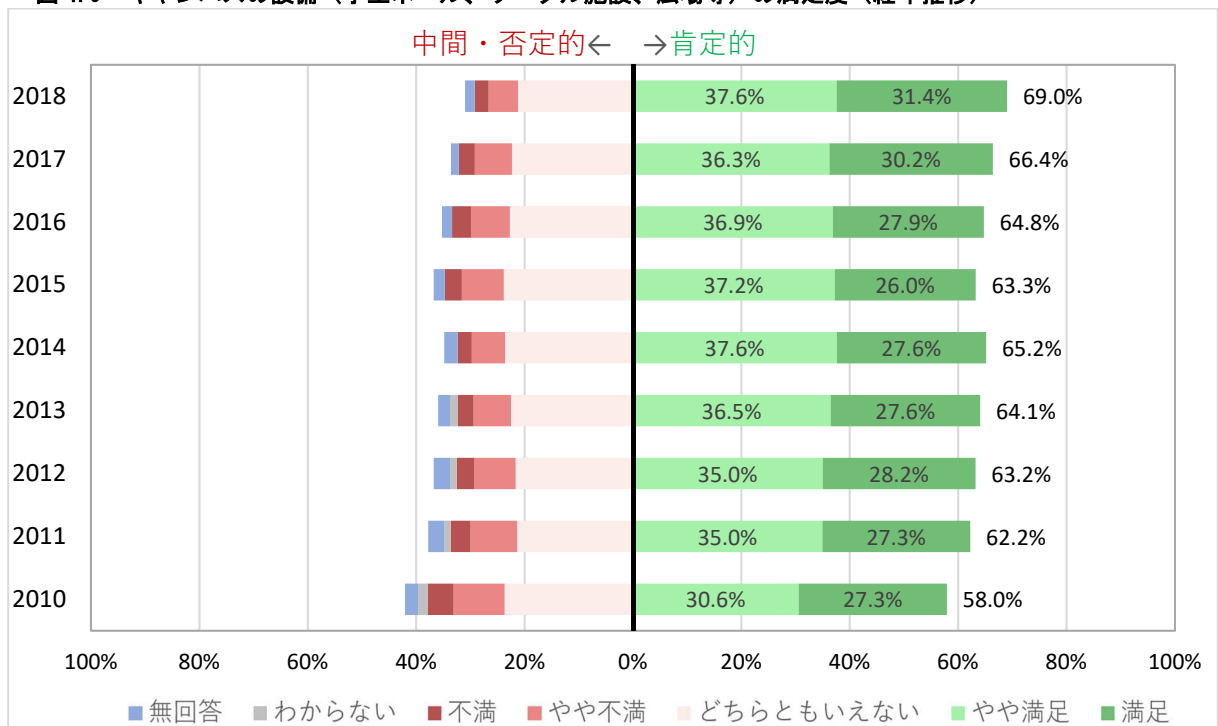


図 4.10 キャンパスの設備（食堂）の満足度（経年推移）

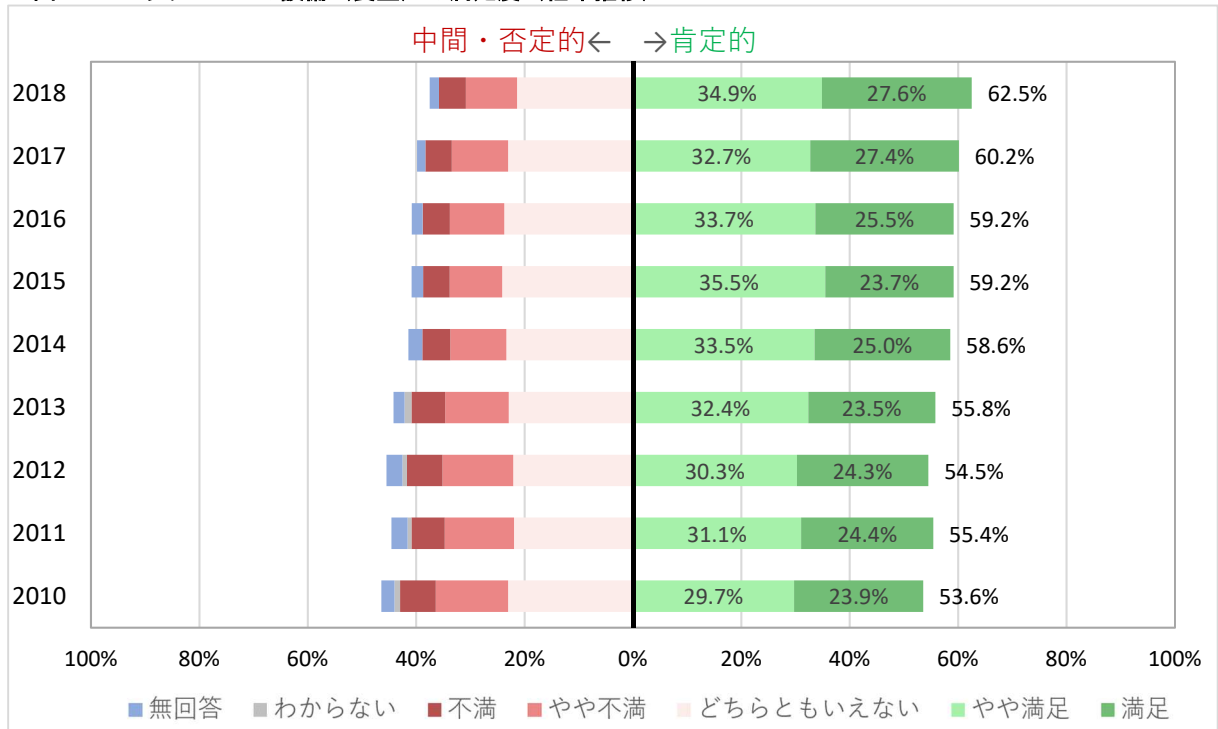
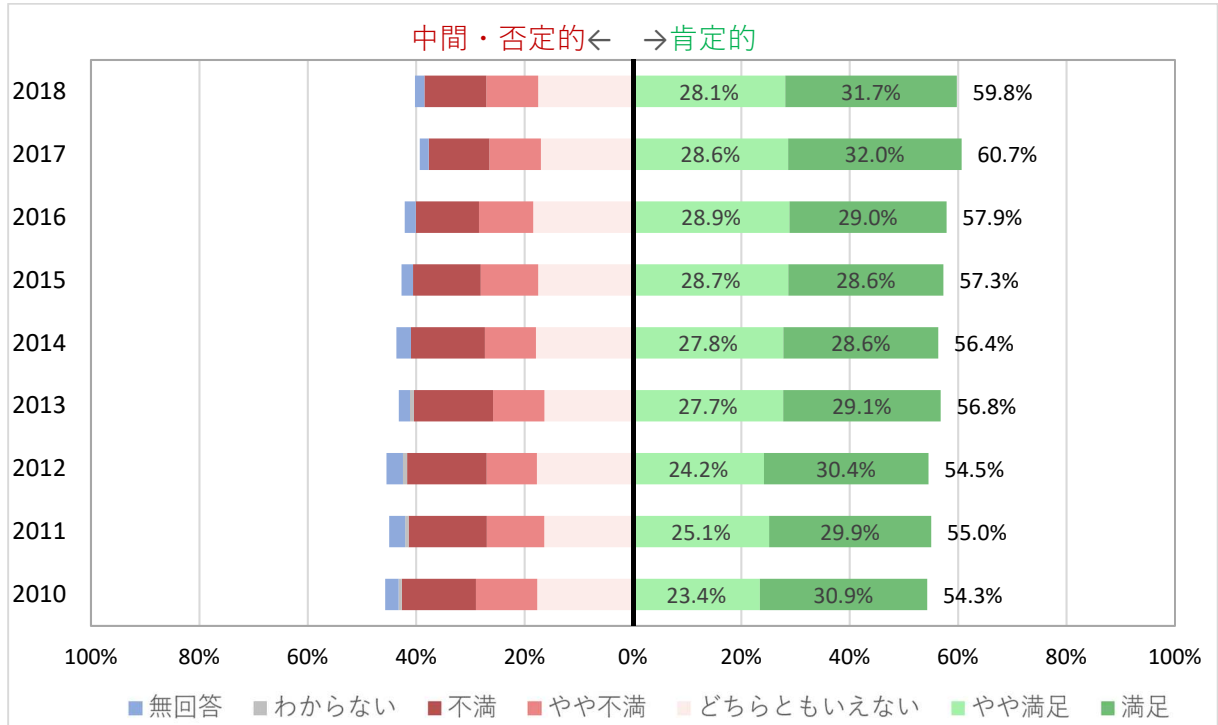


図 4.11 キャンパスの交通の便の満足度（経年推移）



5 法政大学の評価（イメージ）

図 5.1～図 5.7 は、「法政大学は社会からどのように評価されていますか」との質問に対する回答を、単年度集計及び経年推移で示したものである。評価は、①社会的に評価されている、②教育研究水準は相対的に高い、③教育研究を通して社会に貢献している、④国際交流事業は活発である、⑤環境への取り組みを通して社会に貢献している、⑥卒業生は社会的に活躍している、の6項目について質問した。

2018年度の結果のみ見ると、肯定的回答（「そう思う」＋「いくらかそう思う」の割合。以下同じ。）は「社会的評価」「卒業生の活躍」が70%以上と比較的高く、その他の項目が6割台で続く。これは過去2カ年度と同様の傾向である。

続いて、経年推移を見ると、昨年度と同様、いずれの項目も肯定的回答が増加傾向にある。特に「国際交流」の上昇幅が大きい点も昨年度と同じである（2010年度の44.4%から2018年度は65.9%へと約21ポイント上昇）。

図 5.1 法政大学の評価（イメージ）（2018年度）

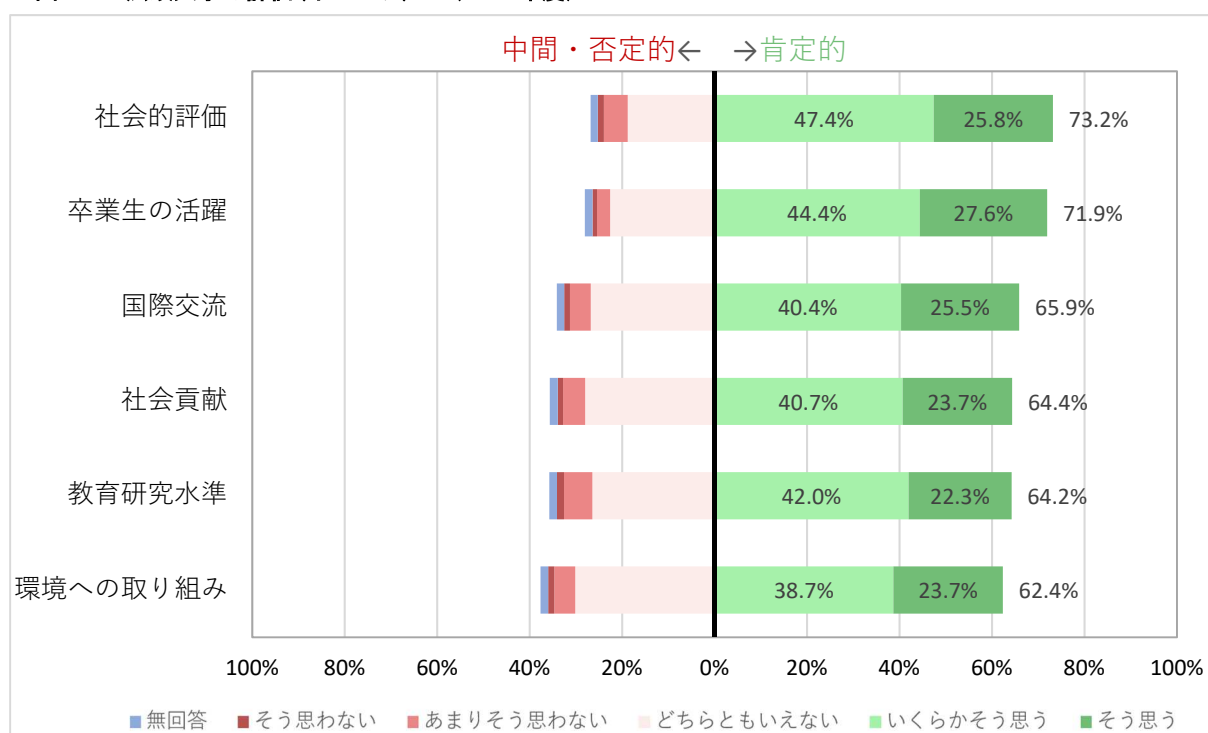


図 5.2 社会的にも高く評価されている（経年推移）

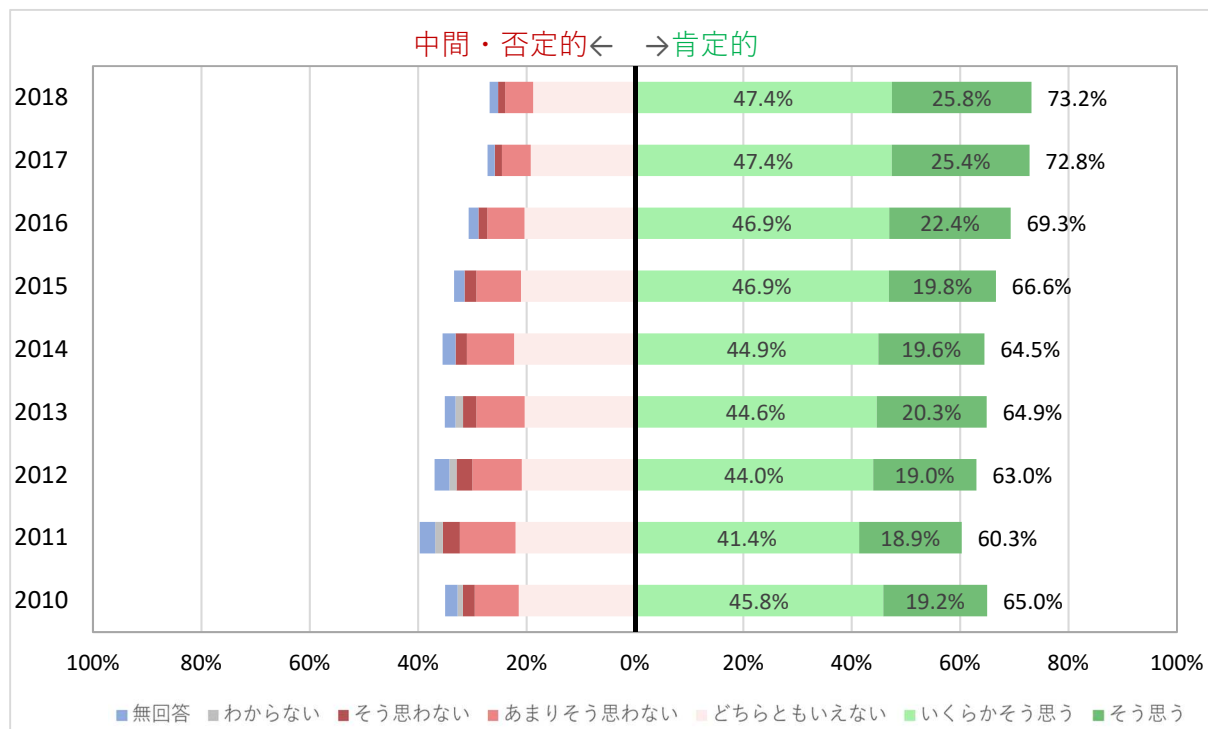


図 5.3 教育研究水準は高い（経年推移）

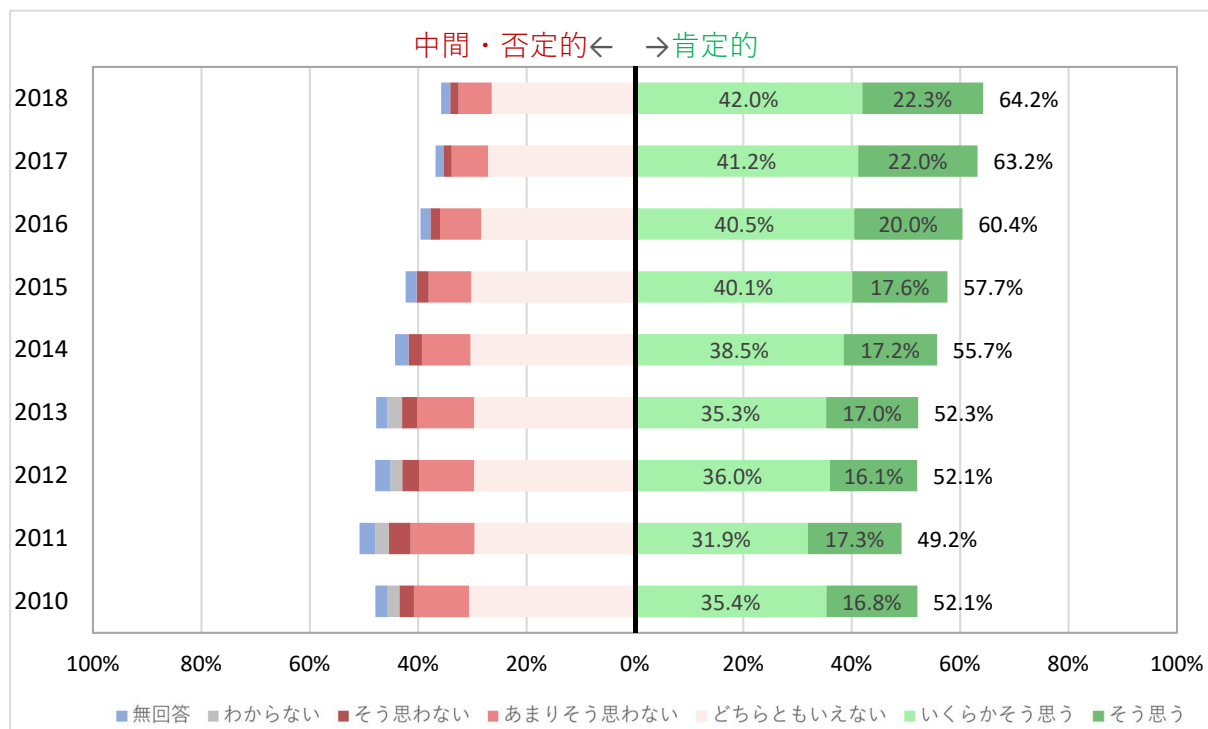


図 5.4 教育研究を通して社会に貢献している（経年推移）

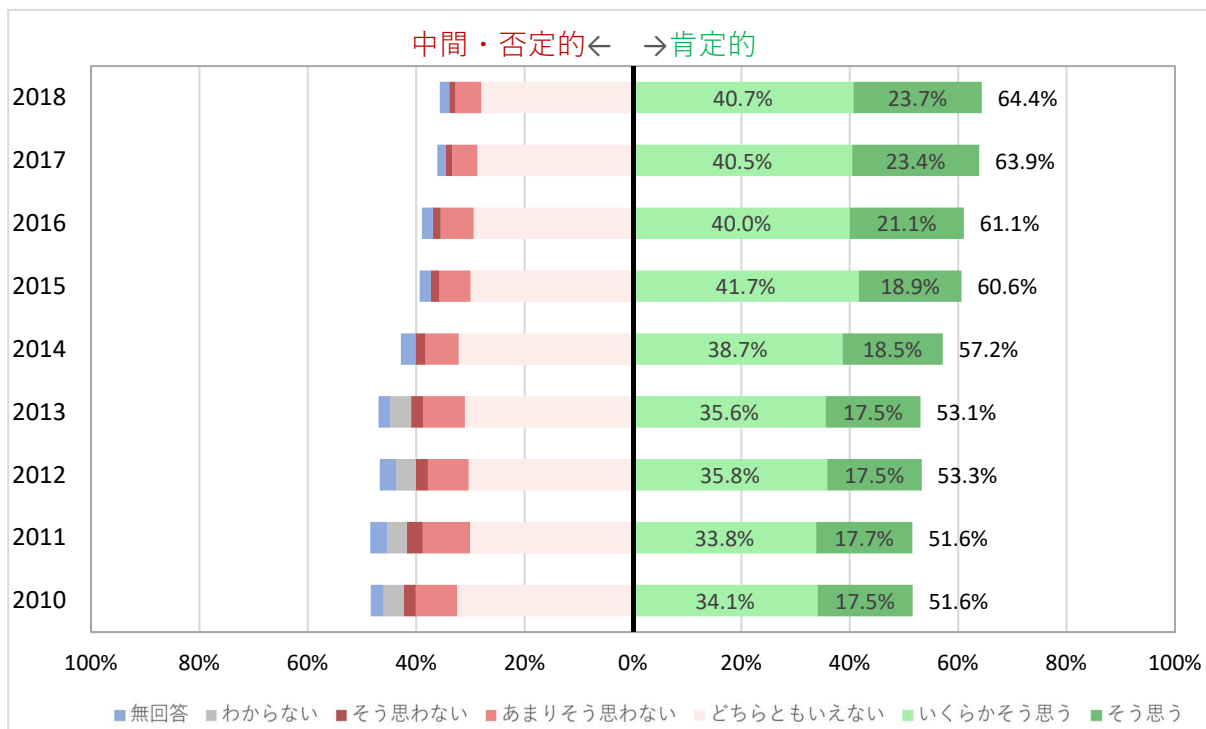


図 5.5 国際交流は活発である（経年推移）

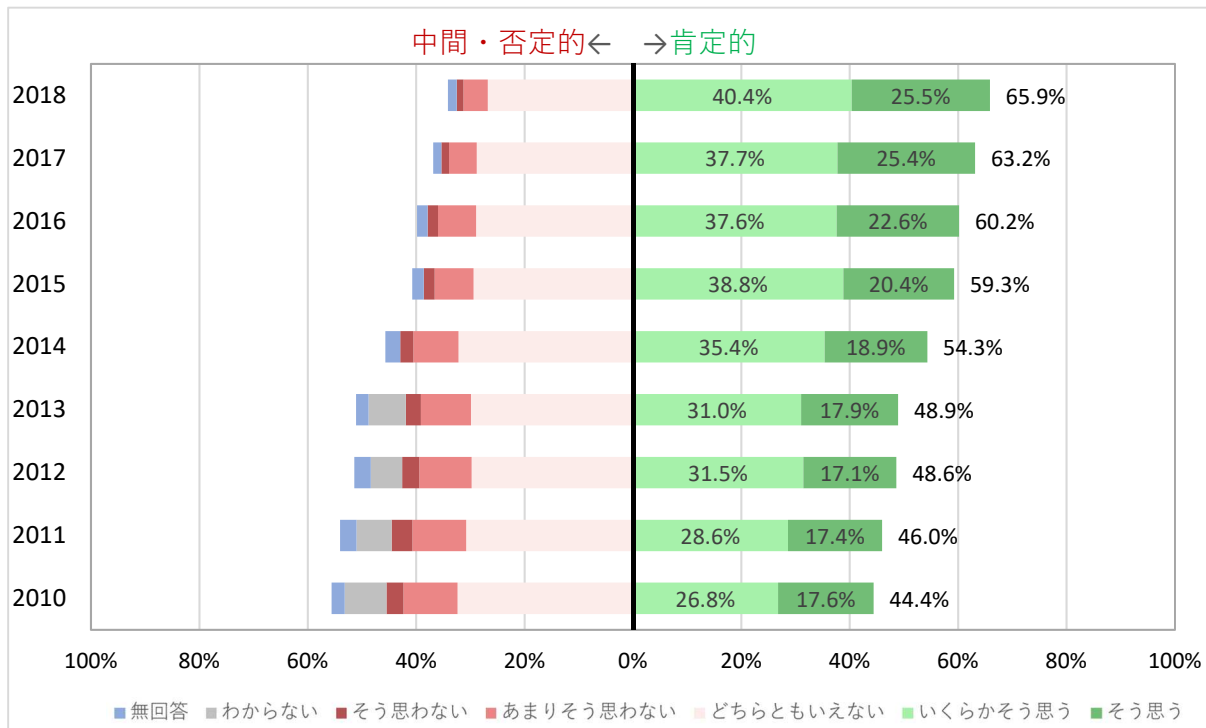


図 5.6 環境への取り組みを通して社会に貢献している（経年推移）

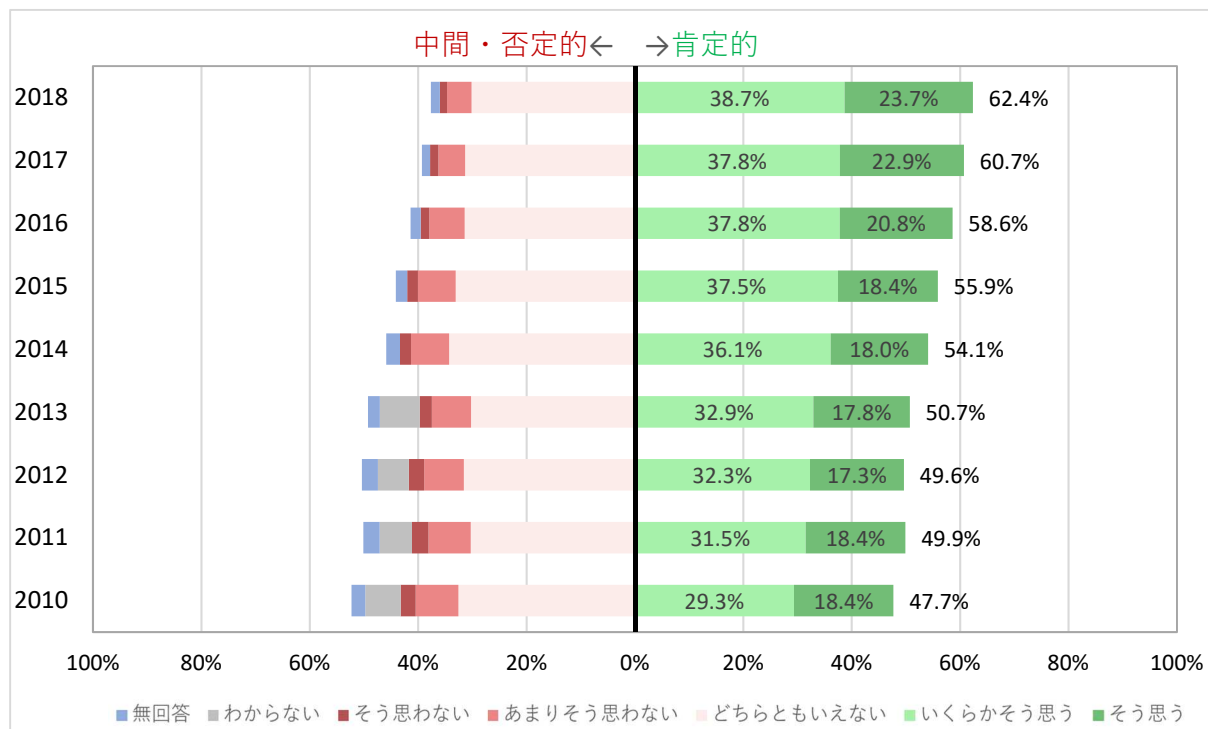
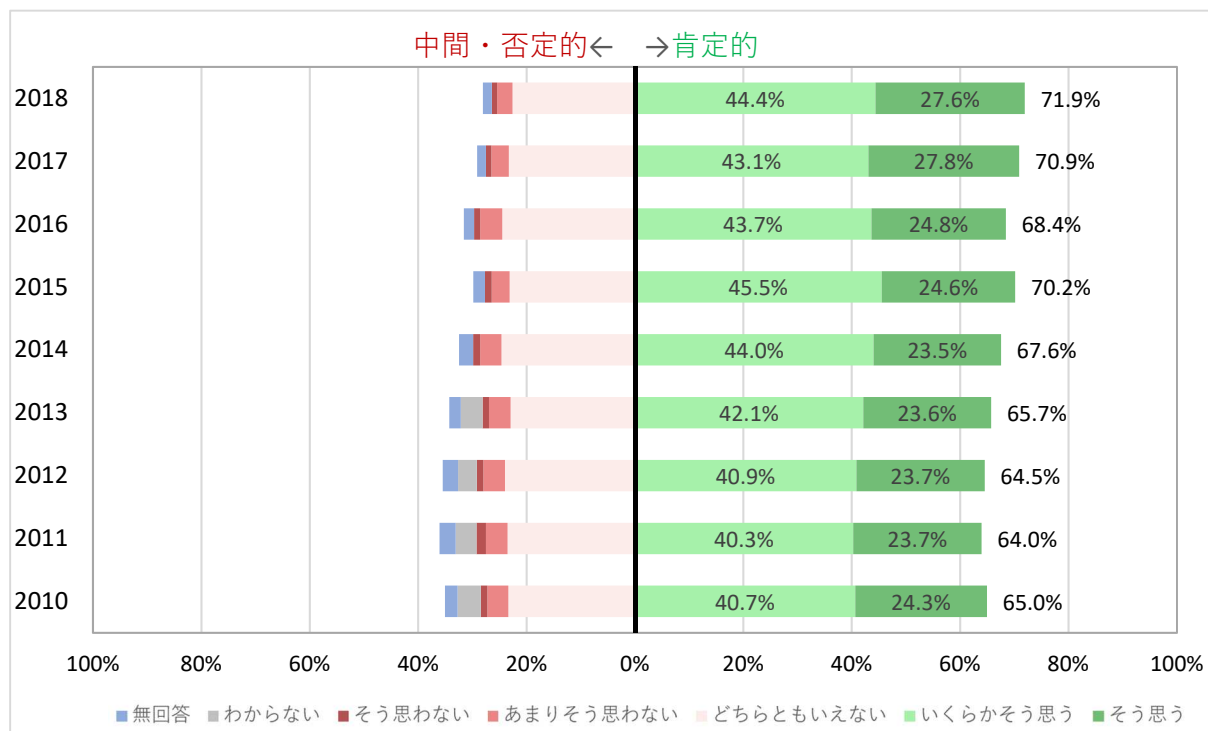


図 5.7 卒業生は社会的に活躍している（経年推移）

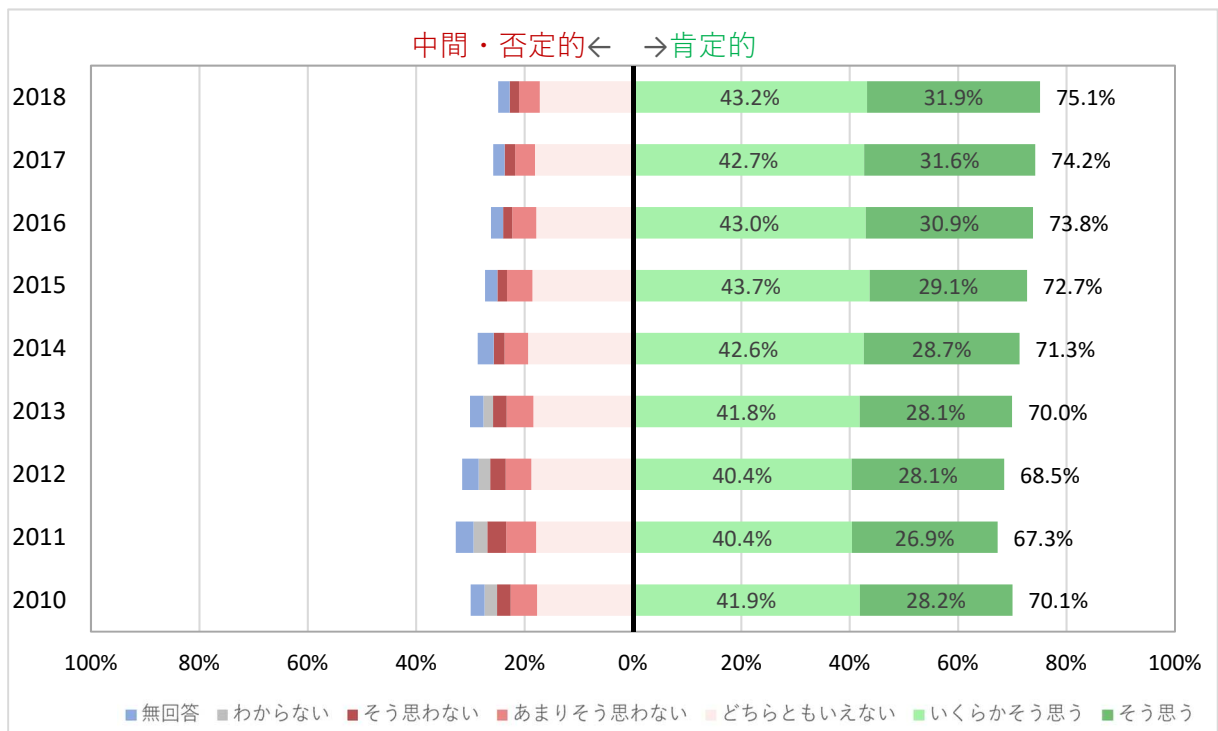


6 法政大学を勧めたいと思うか

図6は、「もし身近に四年制大学への進学希望者がいる場合、法政大学を勧めたいとおもいますか」との質問に対する回答を経年推移で示したものである。

2018年度の肯定的回答（「そう思う」＋「いづらかそう思う」の割合。以下同じ。）の割合は75.1%であり、経年推移を見ると、2011年度に肯定的回答が減少したものの、その後は肯定的回答が増加傾向にある。

図6 法政大学を勧めたいか（経年推移）



以上